MAN-635A　CPX5　2017年12月1日発行
＊MAN635A＊

LIXIL

ラシッサ 上吊連動引戸　取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

⚠注　意…取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

⚠注　意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

■取付け上のお願い

●納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
●運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
●本製品は上吊方式のため、梁またはまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面の梁またはまぐさをご使用ください。
●造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
●造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
●造作材・建具枠の下地材および、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
●造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
●現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
●壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてくだい。
●梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
●枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵が上レールや吊車に付着し、作動不良の原因になります。
●本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
●本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
●組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、叩き込まないようにしてください。保持力低下の原因となります。
●各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
●枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
●枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
●枠は倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。片引き枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
●片引きの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。
●枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
●鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
●フラット下レールを固定する床（下地）は、段差やすき間がないように仕上げてからレールを固定してください。フラット下レールや埋込敷居を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールや埋込敷居が変形し、本体開閉不具合の原因となります。
●本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
●吊車（ソフトモーション付）に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
●製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ（ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど）を直張りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

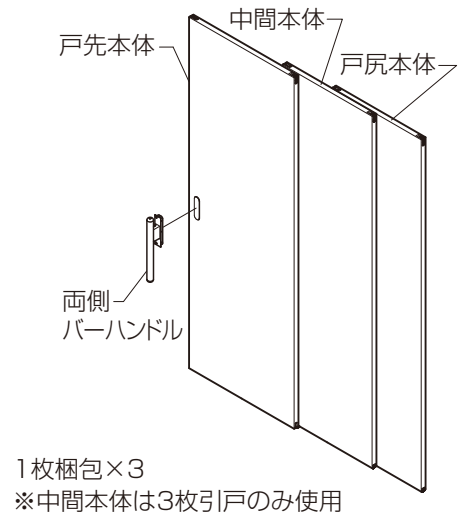
■本体保管上のお願い

●本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所　・昼夜などで温度差の激しい場所　・湿気の多い場所
●本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部材・部品一覧表

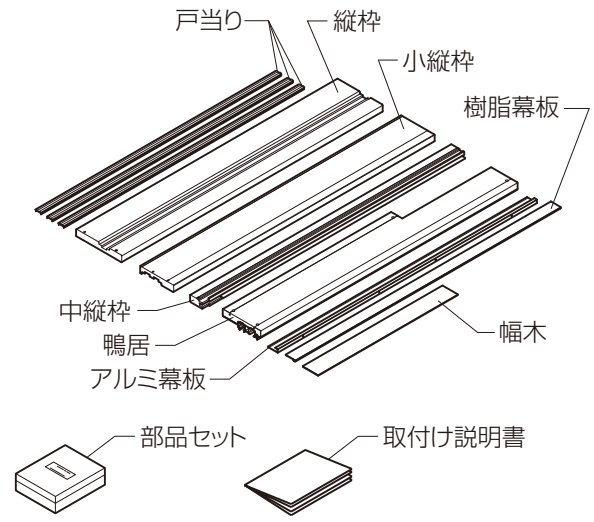
※枠はノックダウン、本体は完成品です。

引戸連動本体

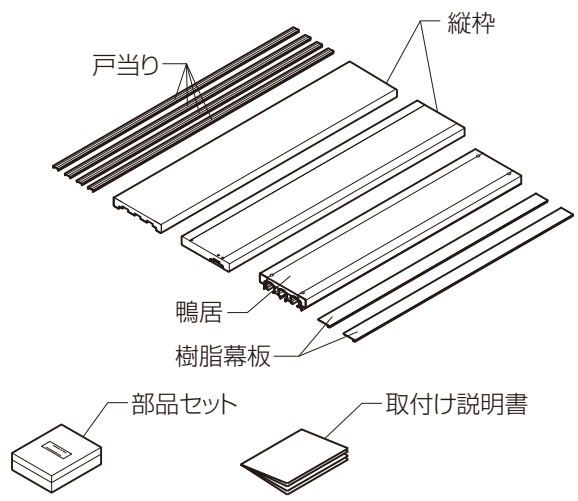


1枚梱包×3
※中間本体は3枚引戸のみ使用

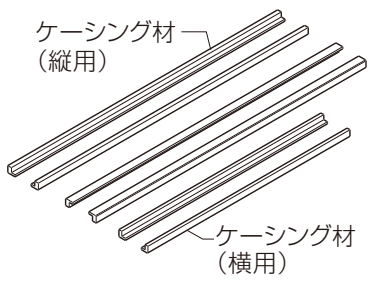
片引2枚



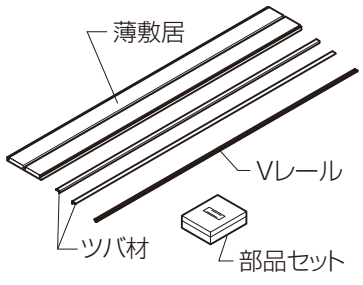
3枚引戸



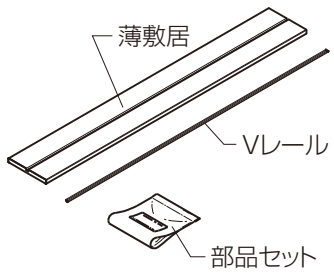
ケーシング材セット(ケーシングタイプのみ)



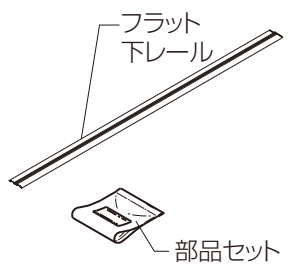
ツバ付薄敷居



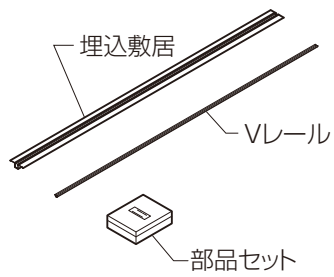
ツバなし薄敷居



フラット下レール



埋込敷居



■引戸連動本体

名称	入数	
	片引2枚	3枚引戸
戸先本体	1	1
中間本体	—	1
戸尻本体	1	1

■枠セット

名称	入数	
	片引2枚	3枚引戸
鴨居	1	1
縦枠	1	2
中縦枠	1	—
小縦枠	1	—
戸当り	3	4
幅木	1	—
樹脂幕板	1	2
アルミ幕板	1	—
部品セット	1	1
取付け説明書	1	1

ケーシングセット ※ケーシングタイプのみ	入数	
	片引2枚	3枚引戸
横部材	2	2
縦部材	4	4

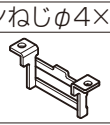
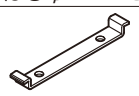
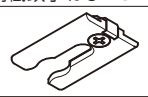
ツバ付薄敷居 ※別売品	入数	
	片引2枚	3枚引戸
薄敷居	1	1
Vレール	1	1
ツバ材	2	2
部品セット	1	1

ツバなし薄敷居 ※別売品	入数	
	片引2枚	3枚引戸
薄敷居	1	1
Vレール	1	1
部品セット	1	1

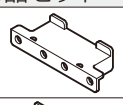
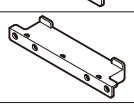
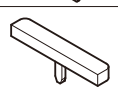
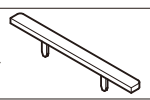
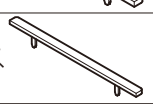
フラット下レール ※別売品	入数	
	片引2枚	3枚引戸
フラット下レール	1	1
部品セット	1	1

埋込敷居 ※別売品	入数	
	片引2枚	3枚引戸
埋込敷居	1	1
Vレール	1	1
部品セット	1	1

■部品セット明細表

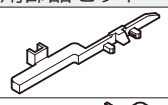
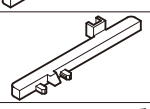
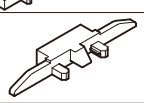
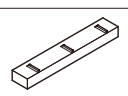
枠用部品セット	片引2枚	3枚引戸
組立て用皿小ねじM4×50	4本	4本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本	6本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	10本	9本
吊車 (ソフトモーション付)	1個	1個
吊車	3個	5個
L型ガイド(キャップ付)	1個	2個
L型ガイド取付け用皿タッピンねじφ4×16	3本	6本
連動固定金具 	1個	—
連動固定金具取付け用なべタッピンねじφ4×20	2本	—
幕板取付け用なべタッピンねじφ4×20	4本	—
ソフトモーション受け金具 	1個	1個
ソフトモーション受け金具取付け用低頭小ねじM3×12	2本	2本
キャッチ 	—	1個

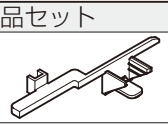
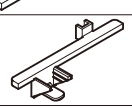
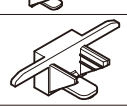
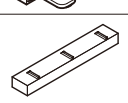
両側バーハンドルセット	入数
バーハンドル	2個
ストッパー	1個
ストッパー受け	1個
ベース固定ねじ(皿小ねじM5×30)	2本
ストッパー固定ねじ(トラスタッピンねじφ4×40)	1本
ストッパー受け固定ねじ(皿タッピンねじφ4×25)	1本

ツバ付薄敷居用部品セット	片引2枚	3枚引戸
固定ピースB 	1個	—
固定ピースC 	1個	2個
戸じゃくり1本用ピース 	1個	1個
戸じゃくり2本用ピース 	1個	—
戸じゃくり3本用ピース 	—	1個
固定ピース取付け用なべ小ねじM4×30	4本	4本
薄敷居取付け用ねじφ3.3×30	12本(6本余り)	6本

ツバなし薄敷居用部品セット	片引2枚	3枚引戸
組立て用皿小ねじM4×50	5本	5本(1本余り)
薄敷居取付け用ねじφ3.3×30	6本	6本

プッシュ錠セット	入数
プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個

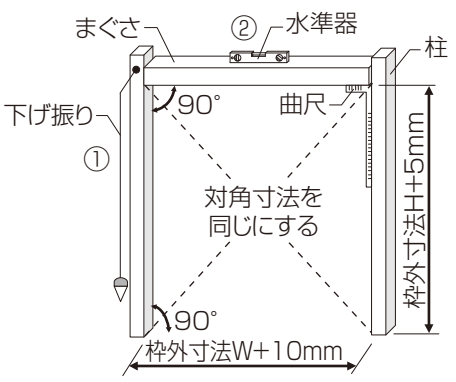
フラット下レール用部品セット	片引2枚	3枚引戸
戸じゃくり1本用 端部ピース 	1個	1個
戸じゃくり2本用 端部ピース 	1個	—
戸じゃくり3本用 端部ピース 	—	1個
中縦枠下部スペーサー 	1個	—
レール取付け用皿タッピンねじφ4(D6)×18	16本	16本

埋込敷居用部品セット	片引2枚	3枚引戸
戸じゃくり1本用 端部ピース 	1個	1個
戸じゃくり2本用 端部ピース 	1個	—
戸じゃくり3本用 端部ピース 	—	1個
中縦枠下部スペーサー 	1個	—
敷居取付け用なべタッピンねじφ4×30	5本	5本

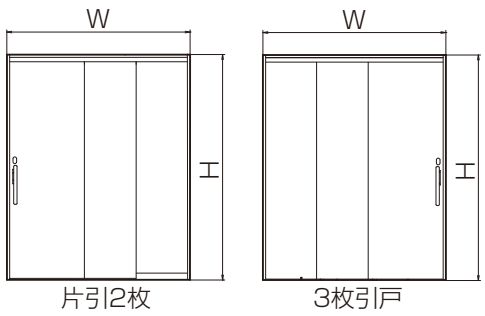
■開口部の作り方

■開口部寸法の出し方

※本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は、強度を要すため、
　105×180(mm)以上を使用してください。鴨居の垂下がりの原因になります。
①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
②水準器･曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。



●製品寸法



■対応壁厚

(単位:mm)

ノンケーシングタイプ	対応壁厚
NC156	116～130
NC171	131～145
NC180	146～160

■壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ

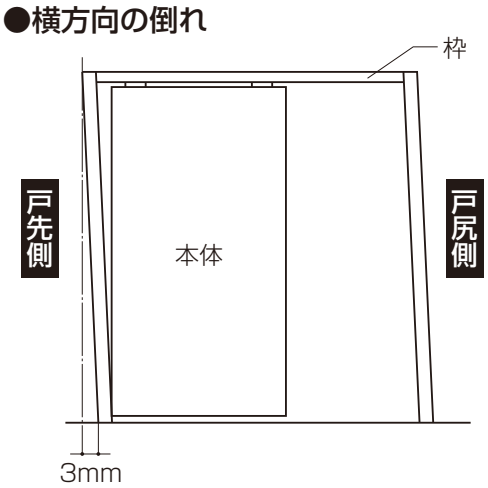
(単位:mm)

	ケーシング(足寸法)	対応壁厚
片引2枚	8	157～167
	14	168～179
	19	180～187
	25	188～198
3枚引戸	8	150～160
	14	161～172
	19	173～180
	25	181～191

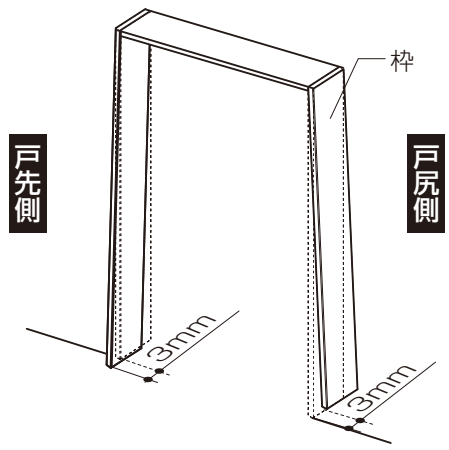
■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ･奥行き方向のねじれ･枠のタイコ･ツヅミが 3mm を超える場合は、3mm以内になるように取付けを修正してください。
　(引戸が吊込めない･ソフトモーション機構の作動不良の原因となります。)

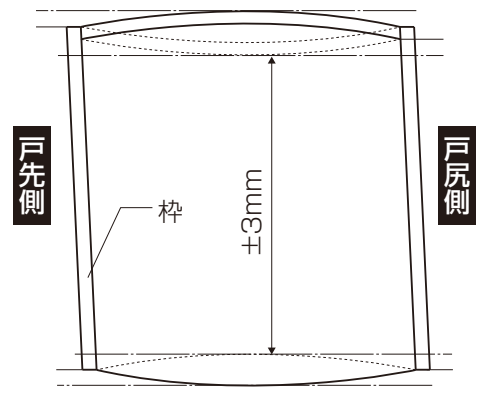
●横方向の倒れ



●奥行き方向のねじれ



●枠のタイコ･ツヅミ

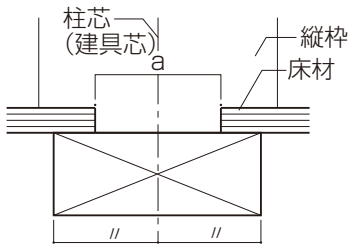


■床の張り方

〔ツバ付薄敷居・埋込敷居の場合〕

●3枚引戸

●床材間に敷居が入りますので、柱芯(建具芯)を中心にa寸法あけて、床材を張ってください。
※床材の開口寸法(a寸法)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり敷居が入りにくい原因となります。

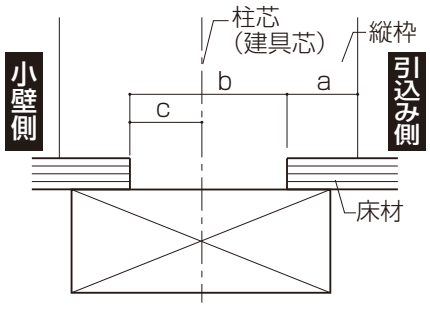


(単位:mm)

	a 寸法	
	ツバ付薄敷居	埋込敷居
3枚引戸	141	30

●片引2枚

●床材間に敷居が入りますので、右図･右表の通りb寸法あけて、床材を張ってください。
※床材の開口寸法(b寸法)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり敷居が入りにくい原因となります。

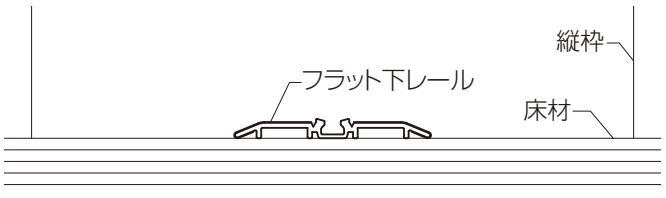


(単位:mm)

		ツバ付薄敷居			埋込敷居		
		a	b	c	a	b	c
片引2枚	NC156	6.5	143	71.5	63	30	15
	NC171	21.5	143	79	78	30	22.5
	NC180	6.5	151	67.5	67	30	7
	C 付	11.5	143	74	68	30	17.5

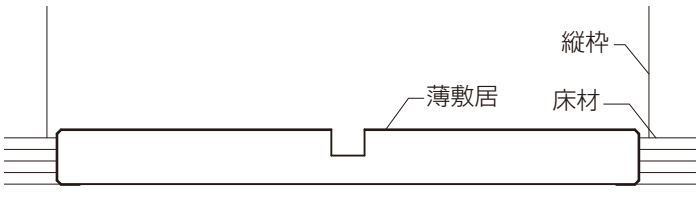
〔フラット下レールの場合〕

●床乗せ仕様になるため、床の開口をつくる必要はありません。



〔ツバなし薄敷居の場合〕

●枠取付け後、縦枠･薄敷居にそって床材を張ってください。



■取付け順序

1. ツバ付薄敷居の取付け（ツバ付薄敷居の場合）
2. 枠の組立て
3. 枠の取付け
4. 下枠の取付け
5. ツバ材の取付け（ツバ付薄敷居の場合）
6. 戸じゃくりピースの取付け（ツバ付薄敷居の場合）
7. Vレールの取付け（埋込敷居・薄敷居の場合）
8. 連動固定金具の取付け（片引2枚のみ）
9. 中縦枠の取付け（片引2枚のみ）
10. ケーシング材の取付け（片引2枚のみ）
11. 幅木の取付け
12. L型ガイドの取付け（片引2枚のみ）
13. 戸当りの取付け
14. 本体の吊込み
15. キャッチの取付け（3枚引戸のみ）
16. バーハンドルの取付け
17. ソフトモーションの動作確認
18. 幕板の取付け（片引2枚のみ）
19. 錠の取付け

調整が必要な場合

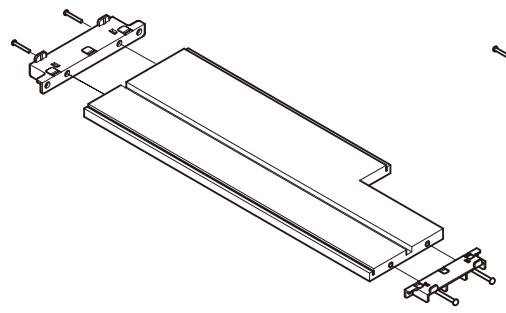
本体の調整（14・15・16/18 ページ）

1. 上下調整
2. 左右調整
3. 本体の取外し方法
4. 中縦枠の調整
5. 引戸錠のかかり調整
6. 異常時の対処方法

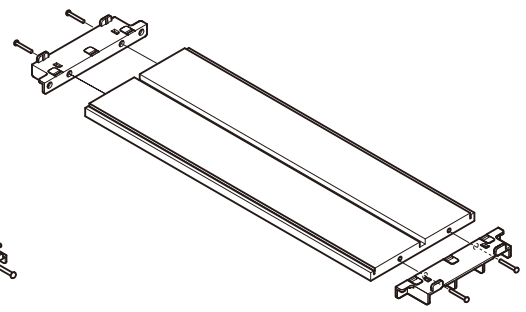
1 ツバ付薄敷居の取付け（ツバ付薄敷居の場合）

①固定ピースを同梱のねじ（なべ小ねじ M4 × 30）で薄敷居に固定します。

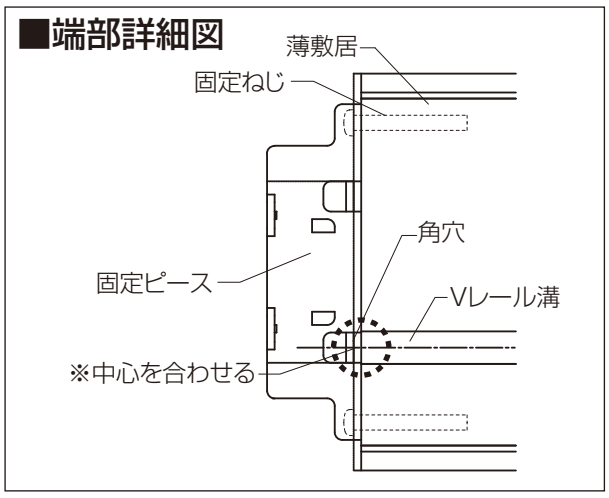
●片引2枚



●3枚引戸

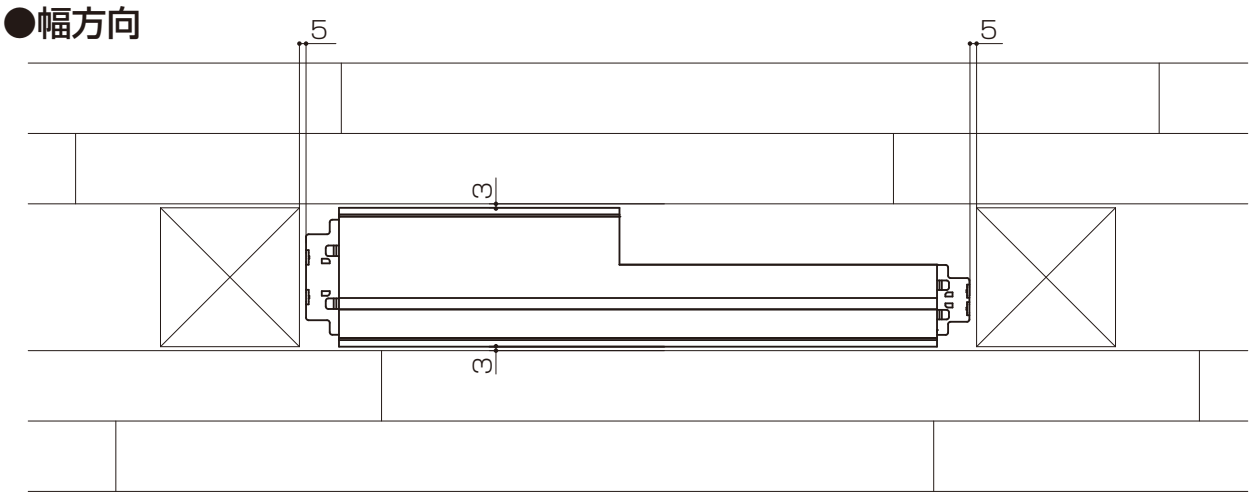


■端部詳細図



②柱・床とのすき間を左右均等に配置してください。
※取付け前に、床の張り位置を確認してください。

●幅方向

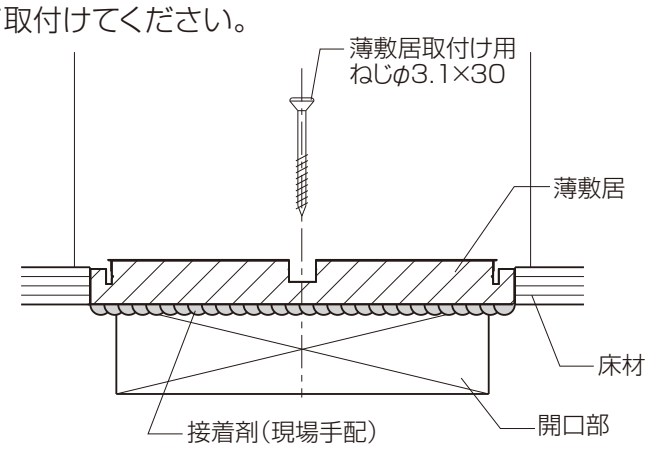


ツバ付薄敷居の取付け動画

973347944002

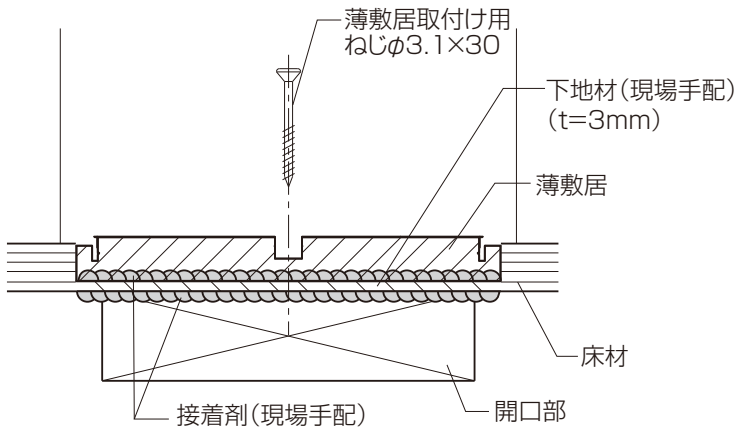
●床材厚さ12mm

※必ず薄敷居に接着剤（現場手配）を付け、躯体に固定してください。
※ねじは端部より100mm 離し、450mm ピッチで接着剤（現場手配）と併用して取付けてください。



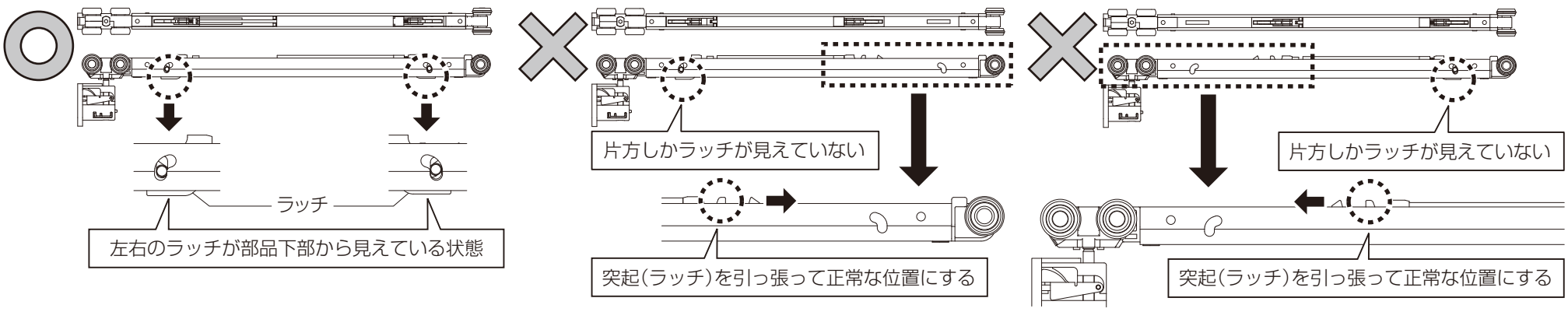
●床材厚さ15mm

※必ず薄敷居に接着剤（現場手配）を付け、躯体に固定してください。

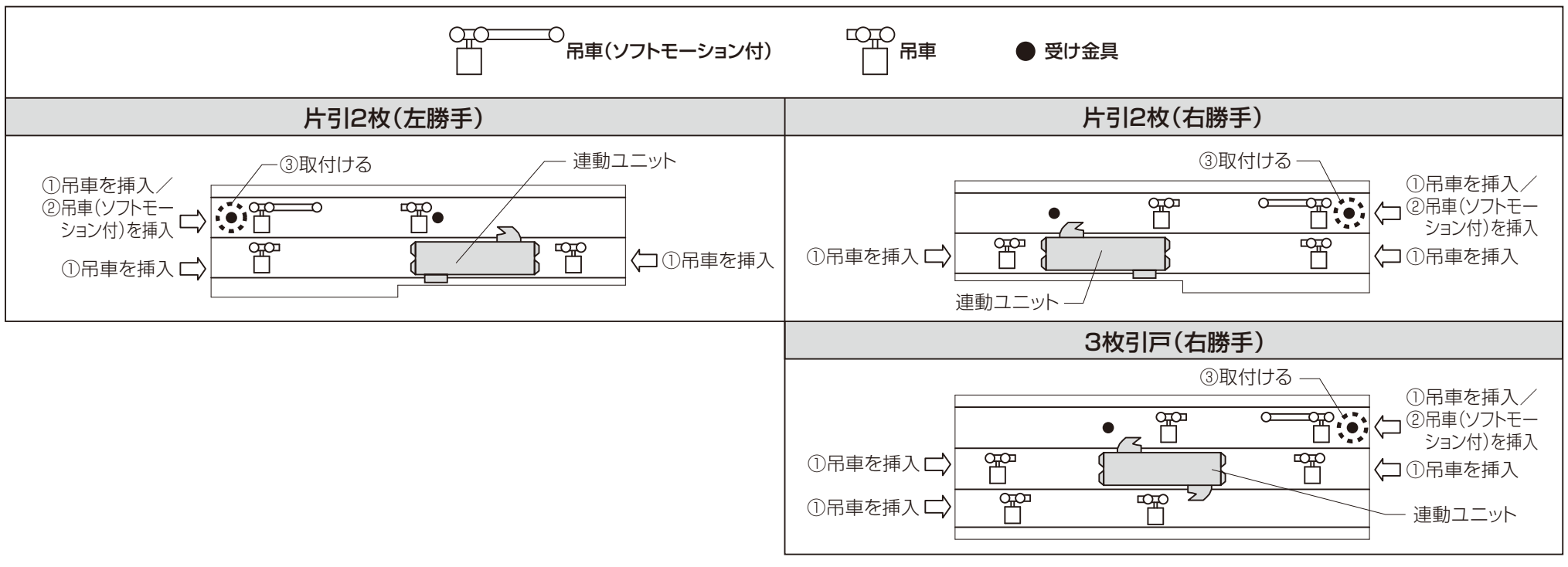


2 枠の組立て

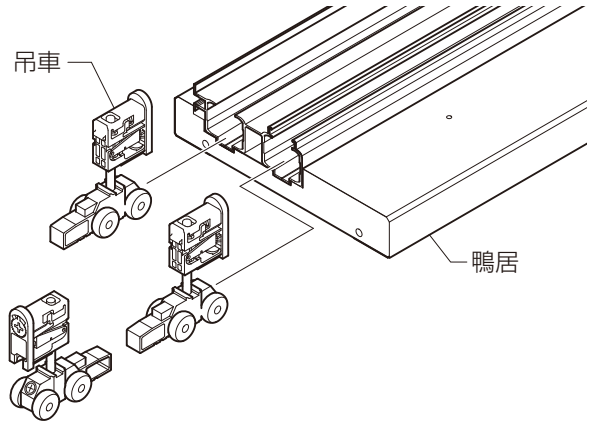
●吊車（ソフトモーション付）のレール挿入前の確認



■吊車の挿入

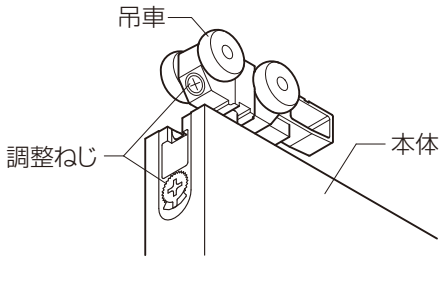


①吊車を挿入してください。

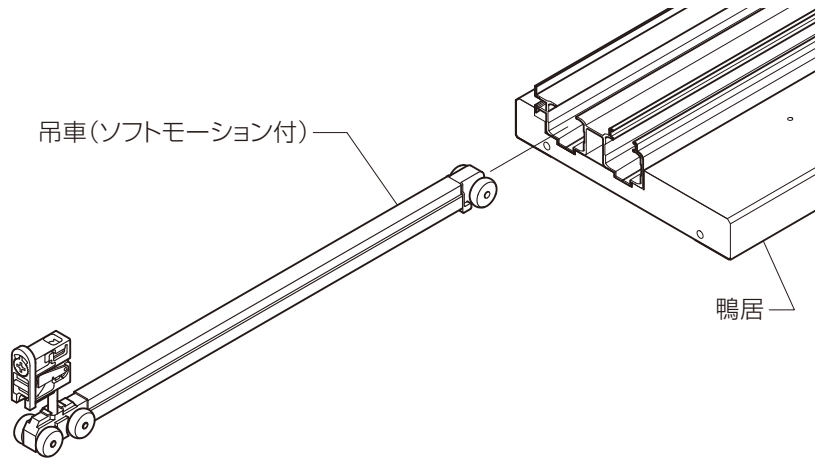


お願い

※吊車を挿入する際は、調整ねじが外側にくるように取付けてください。

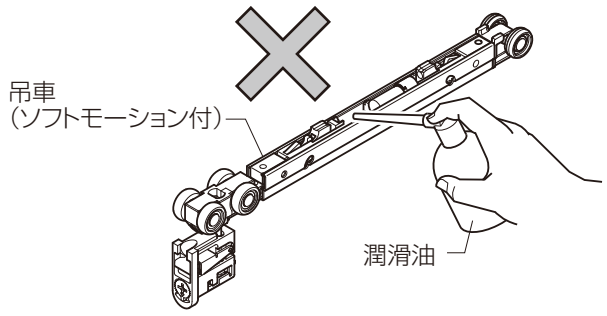


②吊車（ソフトモーション付）を挿入してください。

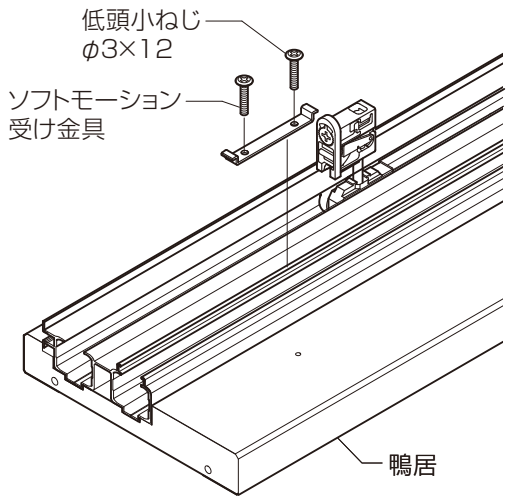


お願い

※吊車（ソフトモーション付）に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

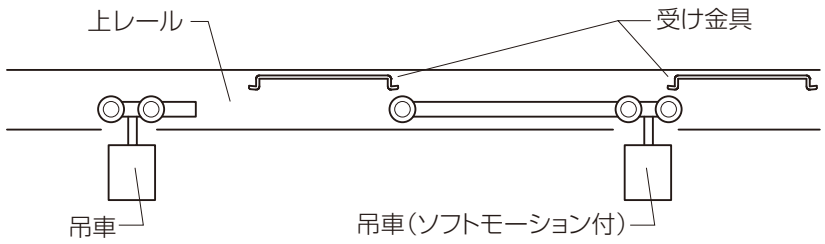


③ソフトモーション受け金具を固定してください。

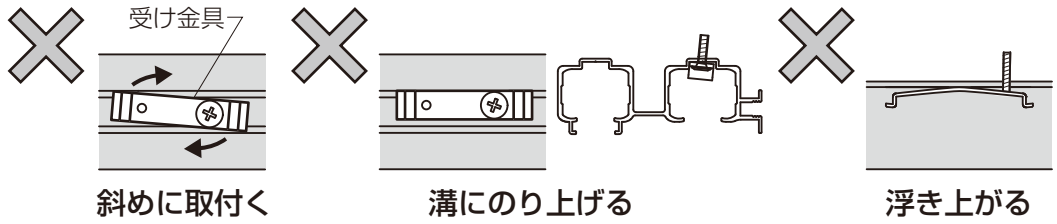


お願い

※吊車(ソフトモーション付)は2個の受け金具の間に来るように配置します。



※完全に固定されるまで、上レールにしっかりと固定してください。
ソフトモーションの作動不良の原因になります。

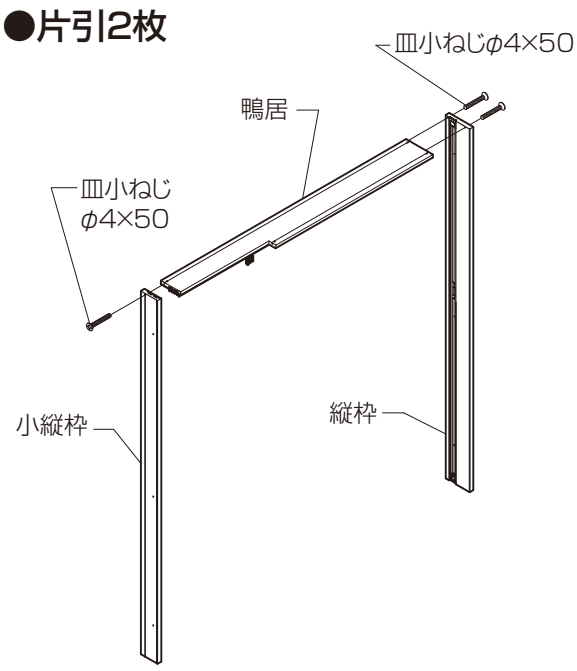


■枠の組立て

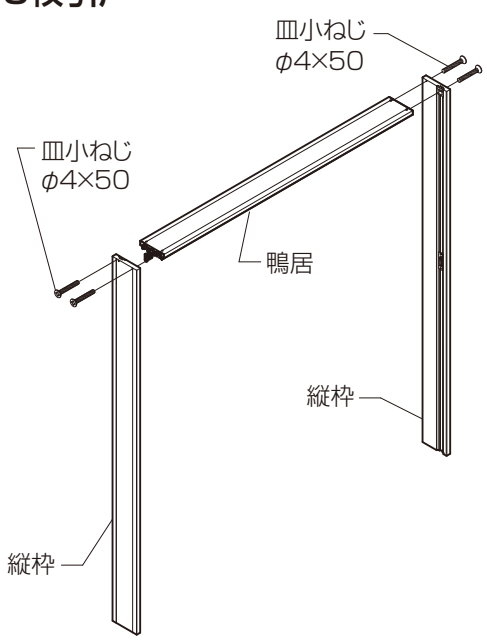
①鴨居に左右の縦枠を皿小ねじφ4×50で組立ててください。
※破損防止のため、組立て後の移動は必ず2名以上で行ってください。
※片引2枚の中縦枠は後で取付けます。

〔ツバ付薄敷居・埋込敷居・フラット下レールの場合〕

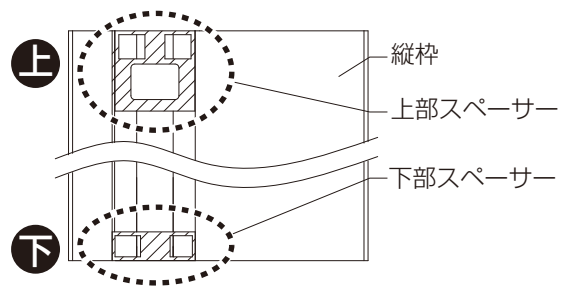
●片引2枚



●3枚引戸

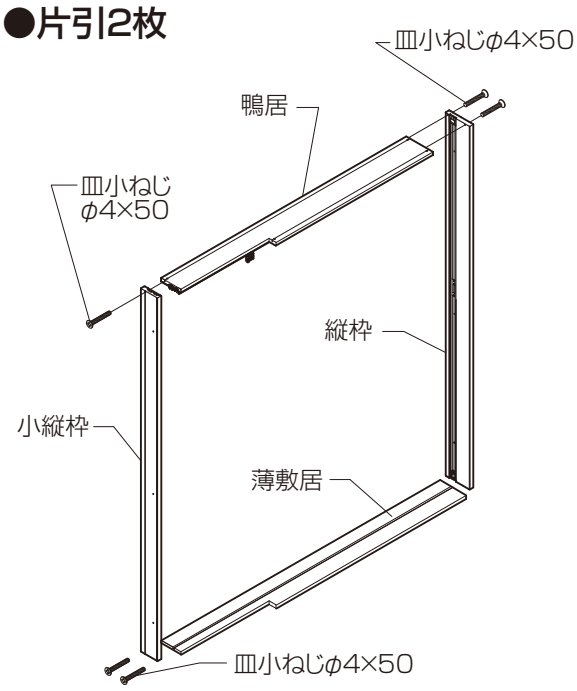


縦枠には上下があります。
大きなスペーサーが付いている方が上側です。組み合わせる向きにご注意ください。
※３方枠Ａの時は、下部スペーサーは付いていません。

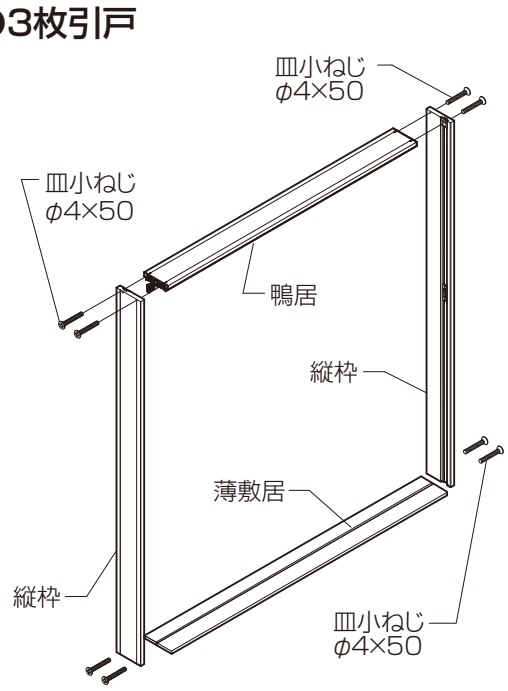


〔ツバなし薄敷居の場合〕

●片引2枚

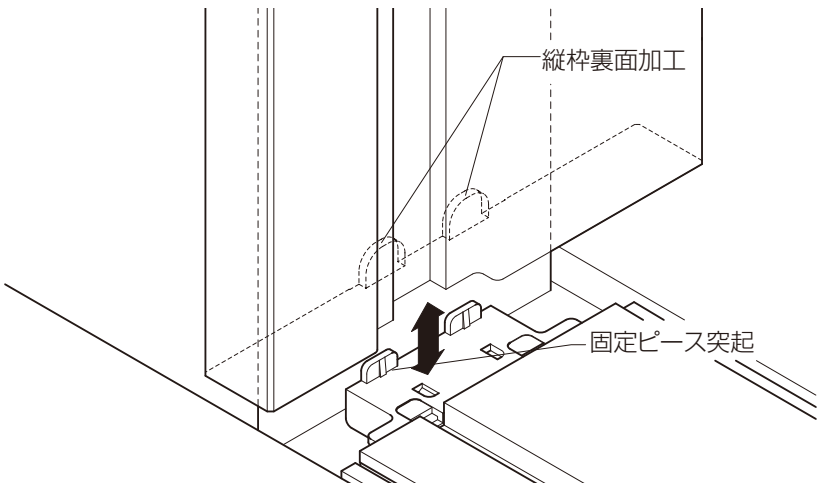


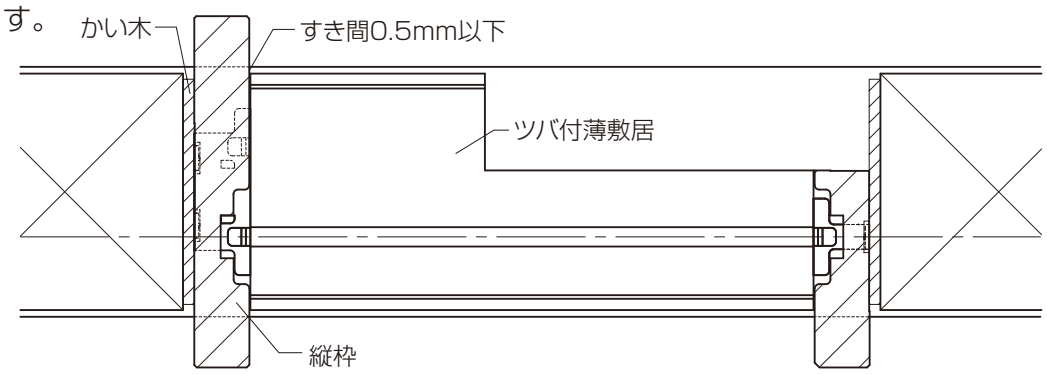
●3枚引戸



■枠の設置（ツバ付薄敷居のみ）

●薄敷居に取付けた固定ピースの突起部を縦枠の裏面加工部に合わせます。

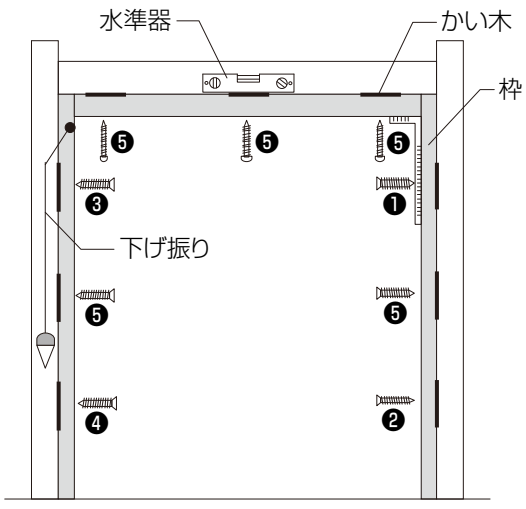




お願い

※縦枠とツバ付薄敷居との間にすき間がある場合にはかい木を挟んで、すき間を小さくしてください。

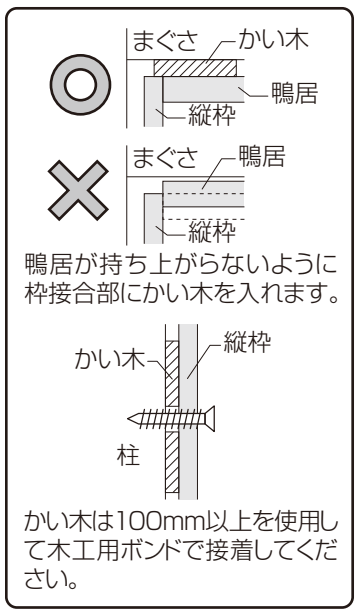
3 枠の取付け



①枠を開口部にはめ込んで、鴨居の水平を確認してから、縦枠の❶を仮固定してください。
②下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の❷を仮固定してください。
③水準器で鴨居の水平を確認してから縦枠の❸を仮固定してください。
④下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の❹を仮固定してください。
⑤枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
※枠に水糸を張るなどして枠が曲がっていないことを必ず確認してください。
※縦枠の固定個所を増やしたい場合は、現場手配の木ねじで躯体に固定してください。

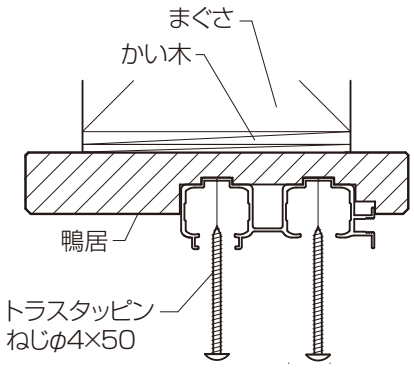
お願い

※枠の倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。



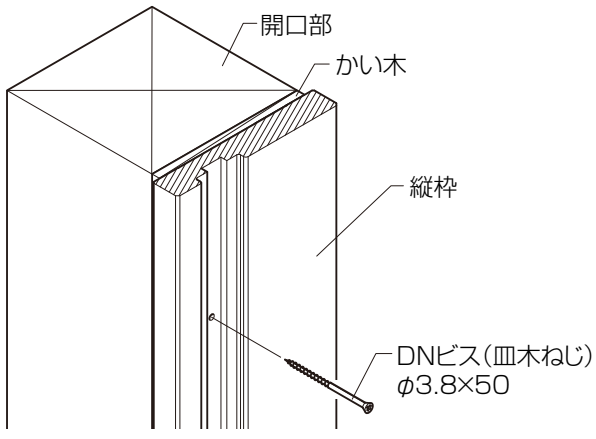
●鴨居

※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。



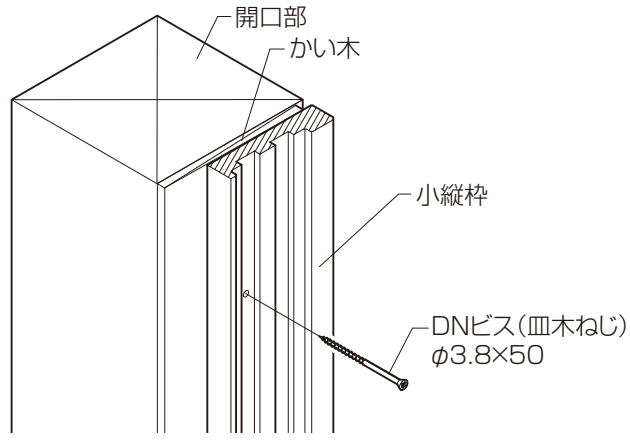
●縦枠

※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



●小縦枠

※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



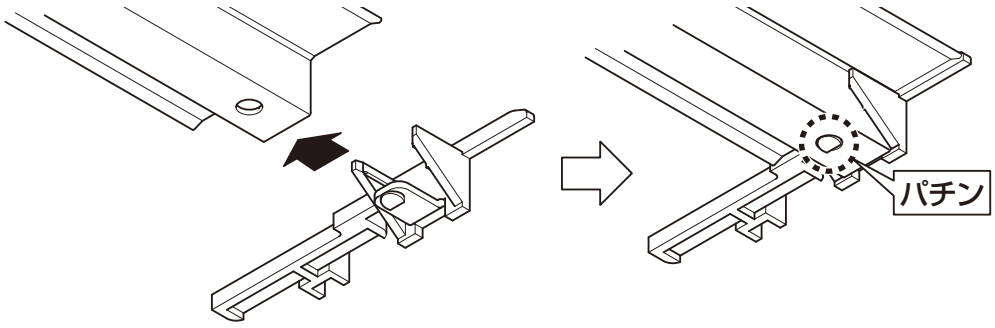
お願い

※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
※鴨居の躯体固定ねじを締込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

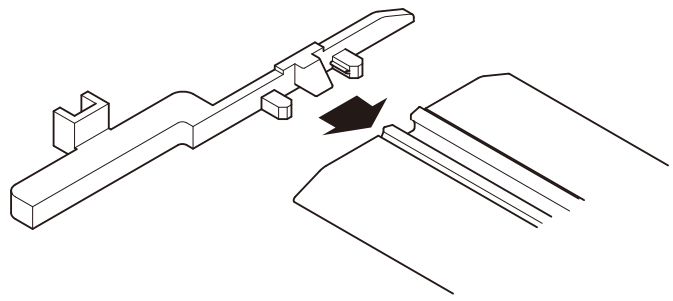
4 下枠の取付け
〔埋込敷居・フラット下レールの場合〕

①端部ピースを取付けてください。
※端部ピースの取付け向きは下記を参照してください。

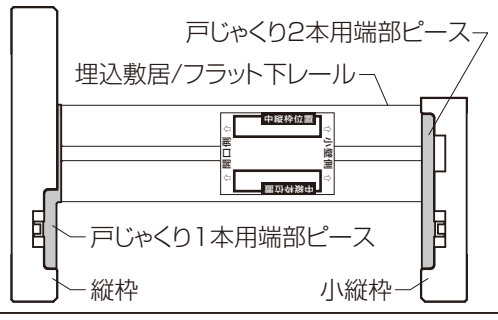
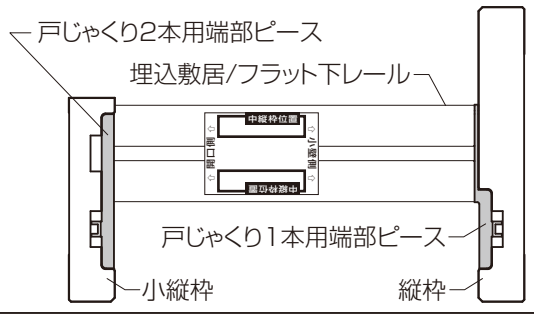
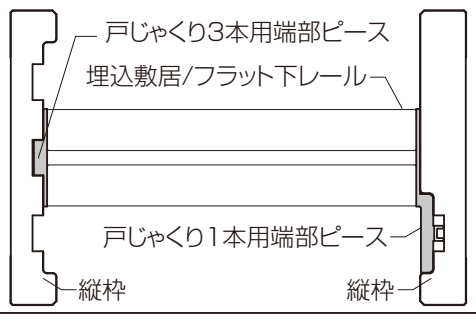
●埋込敷居



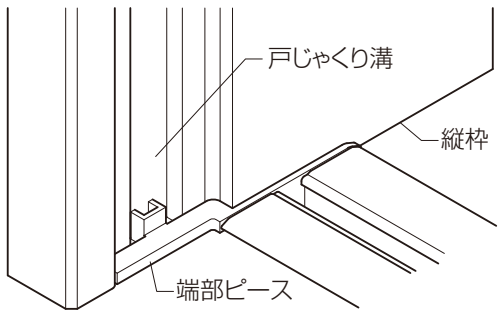
●フラット下レール



■端部ピースの取付け向き

片引2枚(左勝手)	片引2枚(右勝手)	3枚引戸(右勝手)
		

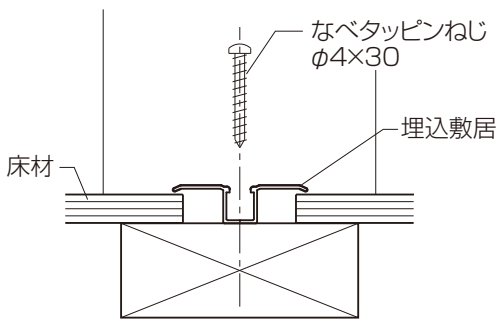
②端部ピースを縦枠の戸じゃくり溝に合わせて、埋込敷居またはフラット下レールを設置してください。



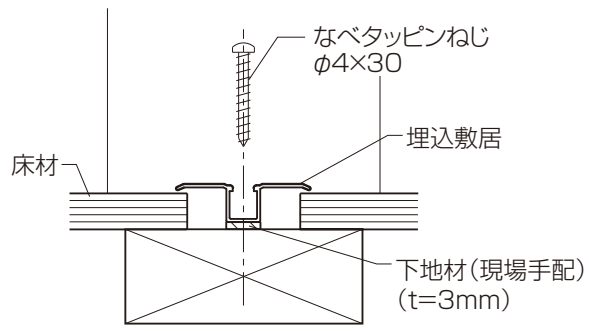
③同梱の取付けねじで固定してください。

〔埋込敷居の場合〕

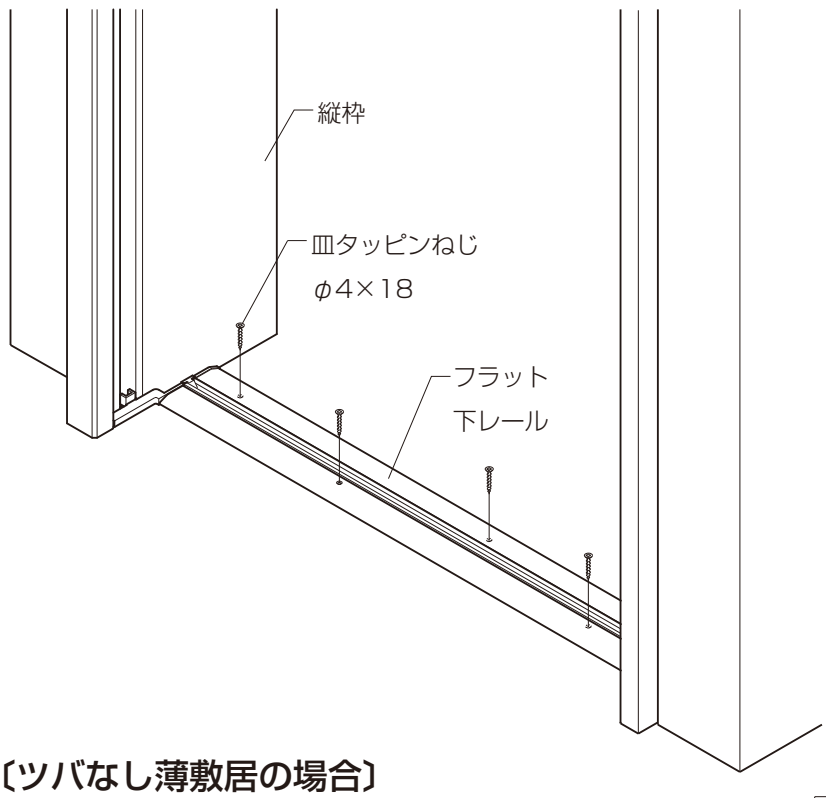
●床材厚さ12mm



●床材厚さ15mm

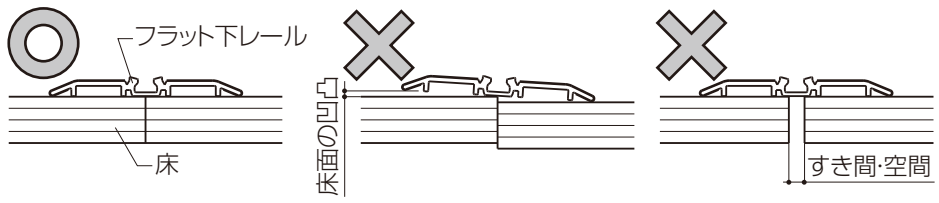


〔フラット下レールの場合〕

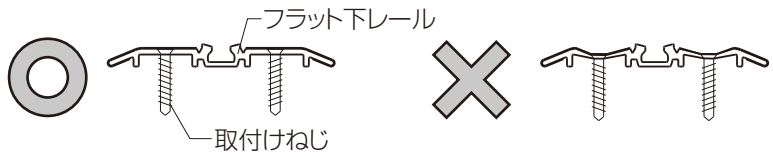


お願い

※床(下地)は段差やすき間がないように仕上げてからフラット下レールを固定してください。



※取付けねじを締めすぎないでください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。

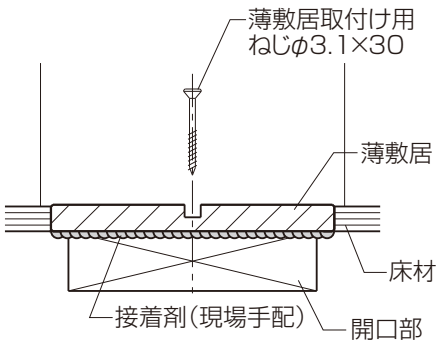


〔ツバなし薄敷居の場合〕

●床材厚さ12mm

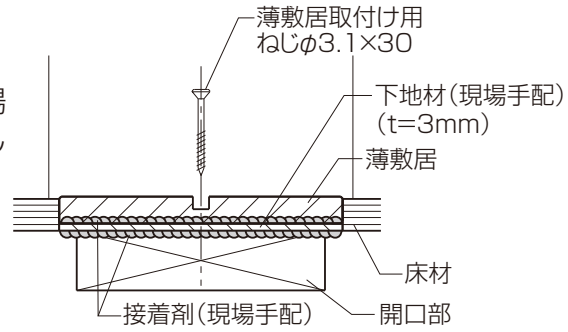
※必ず薄敷居に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。

※ねじは端部より100mm 離し、450mm ピッチで接着剤(現場手配)と併用して取付けてください。



●床材厚さ15mm

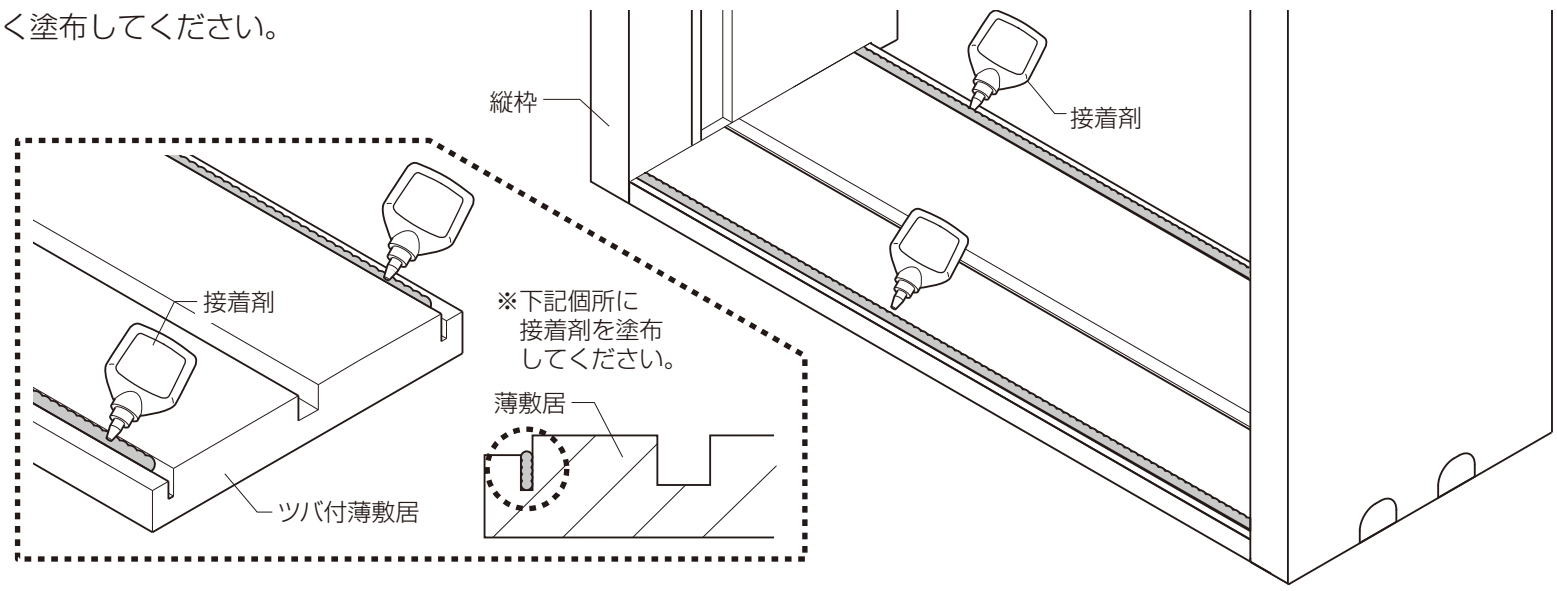
※必ず薄敷居に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



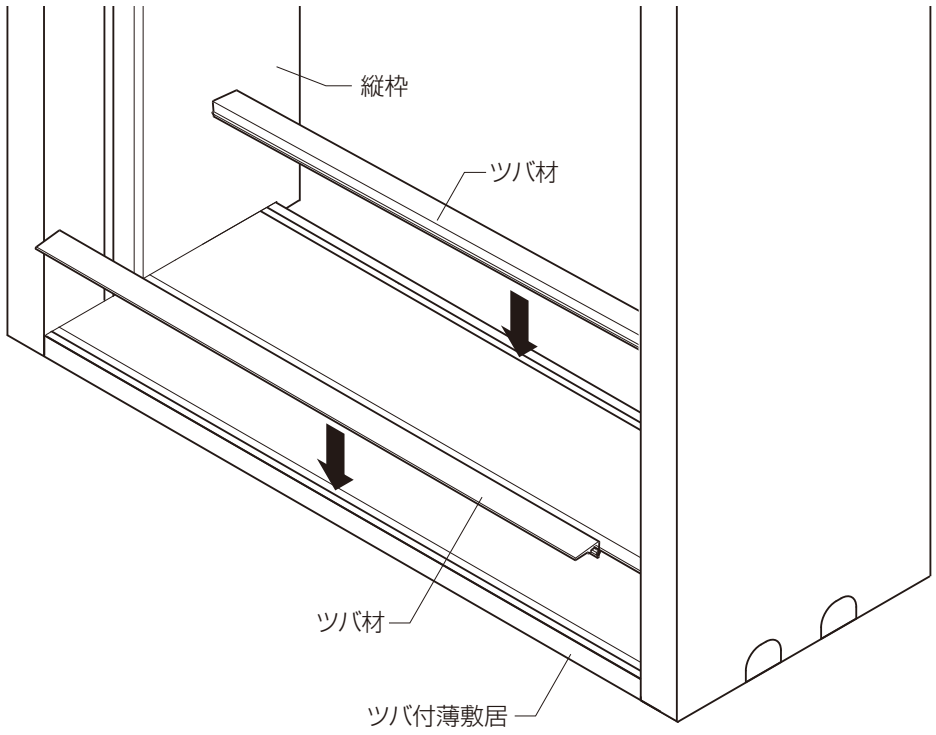
5 ツバ材の取付け(ツバ付薄敷居の場合)

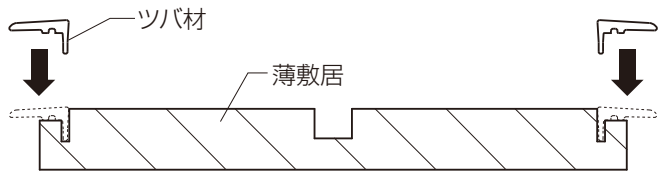
①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。

②薄敷居の溝に接着剤(現場手配)を溝全長にすき間なく塗布してください。



③ツバ材を溝に手ではめこんでください。



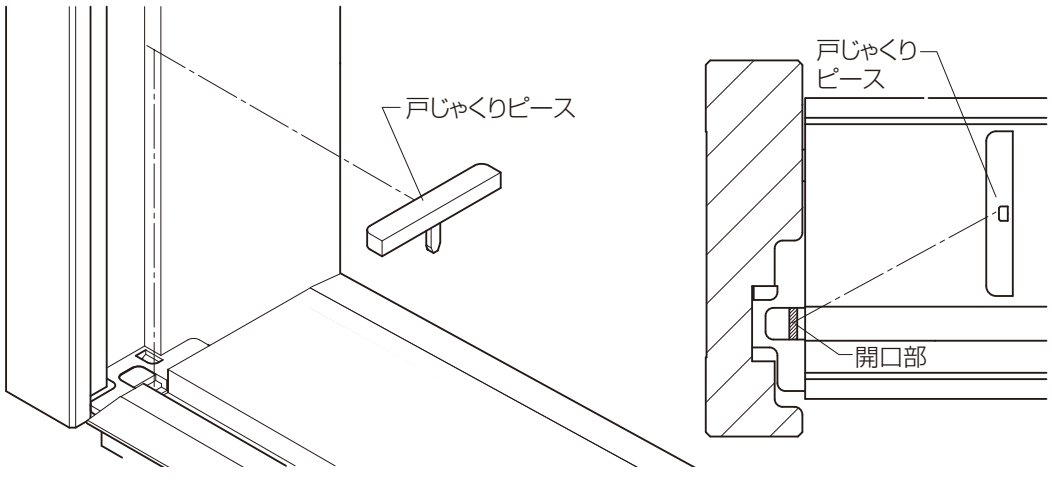


お願い

※ツバ材取付部には必ず接着剤をすき間なく塗布してください。
　塗布が不十分だとツバ材の外れ、敷居が割れる可能性があります。
※ツバ材は、ハンマーなどで直接強くたたき込まないでください。
　ツバ材、敷居が破損する可能性があります。

6 戸じゃくりピースの取付け（ツバ付薄敷居の場合）

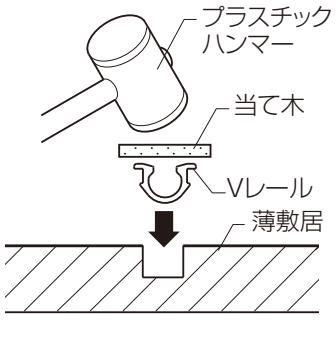
●薄敷居の固定ピースの四角い開口部に戸じゃくりピースを差込み固定します。



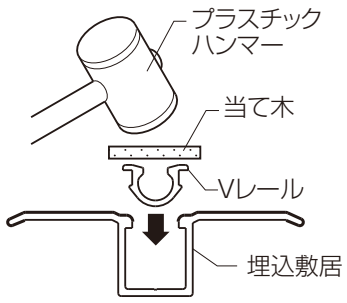
7 V レールの取付け（埋込敷居・薄敷居の場合）

●敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。

●薄敷居

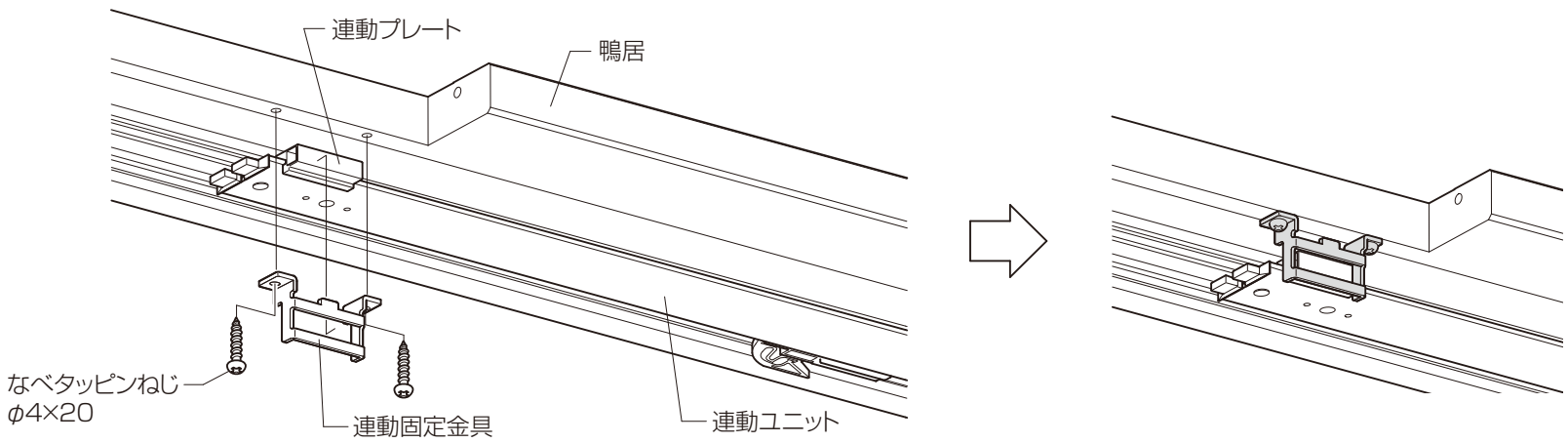


●埋込敷居



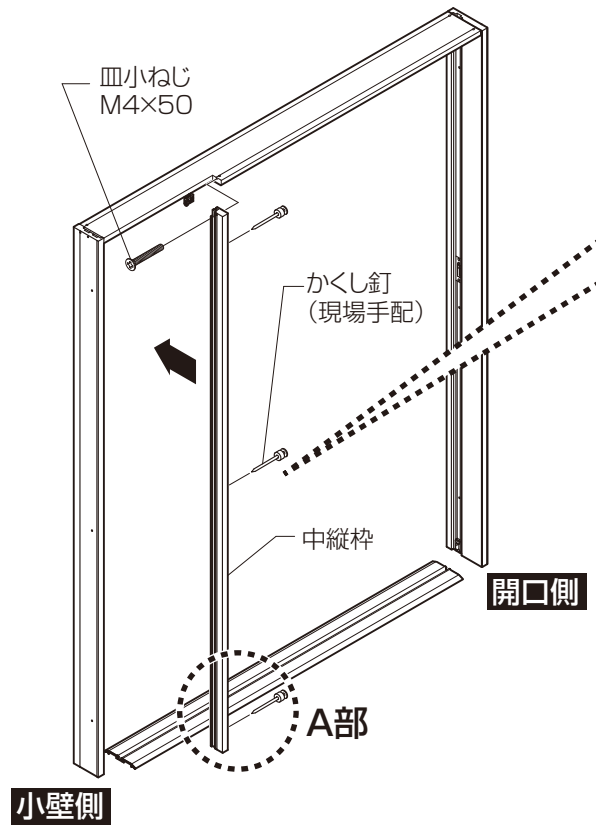
8 連動固定金具の取付け（片引2枚のみ）

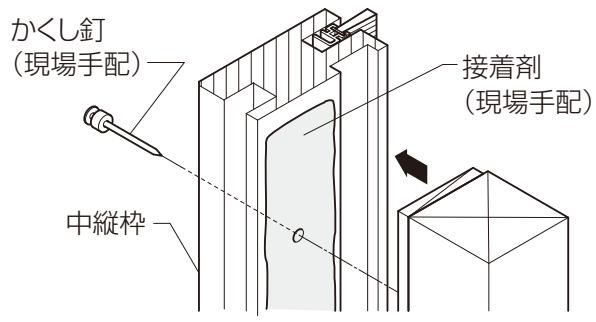
●連動ユニットの連動プレートを挟み込むように、連動固定金具を鴨居に取付けてください。
※ねじで連動ユニットを傷つけないように注意してください。



9 中縦枠の取付け（片引2枚のみ）

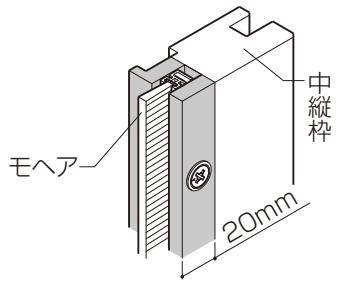
①中縦枠を皿小ねじM4×50で取付けてください。





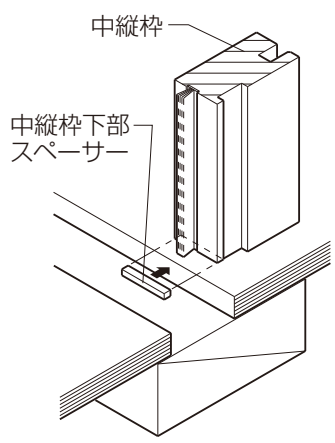
※裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。

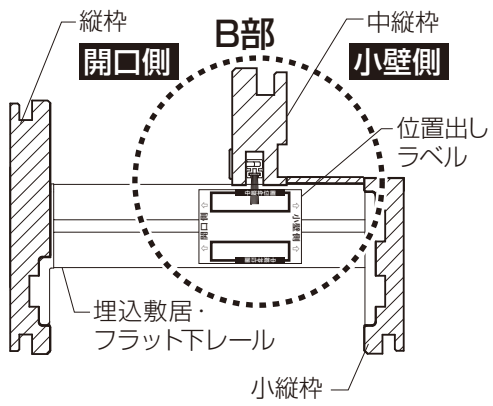
中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、部品が破損し調整出来なくなります。



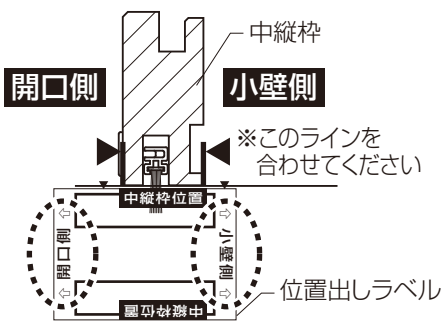
■A部詳細図

●中縦枠下部ピースを取付け、位置出しラベルに合わせて取付けてください。





■B部詳細図

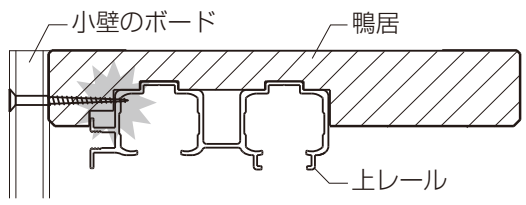


※片引戸のフラット下レールおよび埋込敷居は中縦枠位置出しのため向きがあります。必ずラベルの「小壁側」「開口側」を確認してください。

お願い

※片引きの建具引込み部の小壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。小壁のボードを取付ける際、取付けねじが鴨居と上レールを貫通しないように注意してください。作動不良の原因となります。

※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。



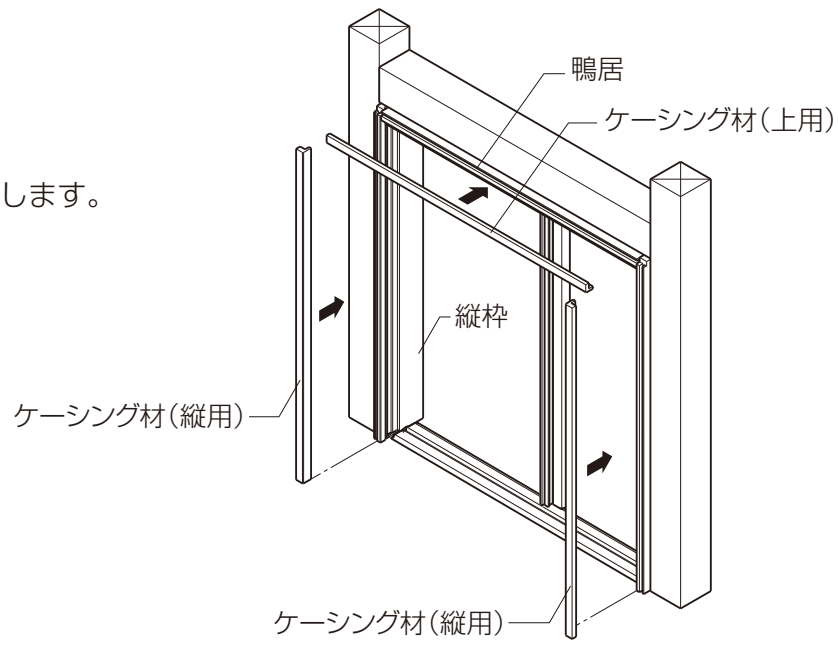
10 ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げた後、ケーシング材を取付けます。

①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。

②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。

③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現地手配）を塗布し、ケーシングを固定します。

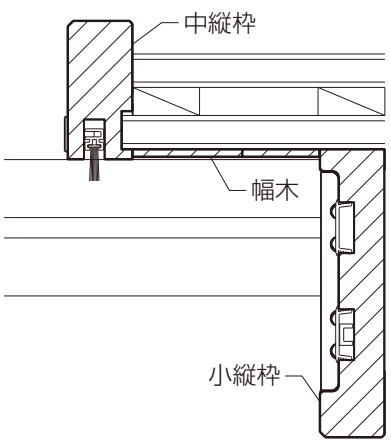


11 幅木の取付け（片引2枚のみ）

※小壁のボードと床材を見切るために幅木が同梱されています。
幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。
かくし釘のピッチは、200～300mmです。

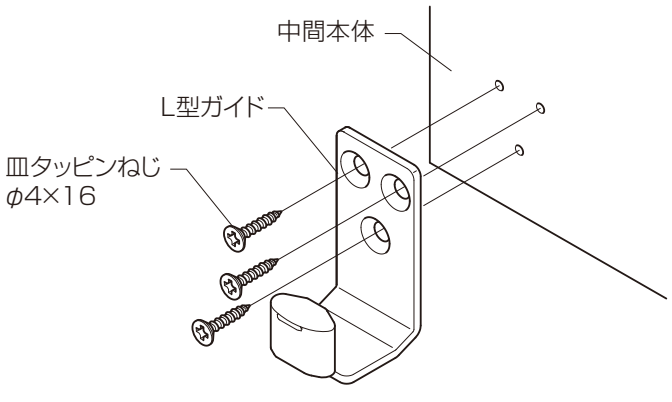
お願い

※1度張付けたあとに張直しをする場合は、上部からゆっくりと引っ張ってはがしてください。勢いよくはがすと、表面シートを傷める可能性があります。



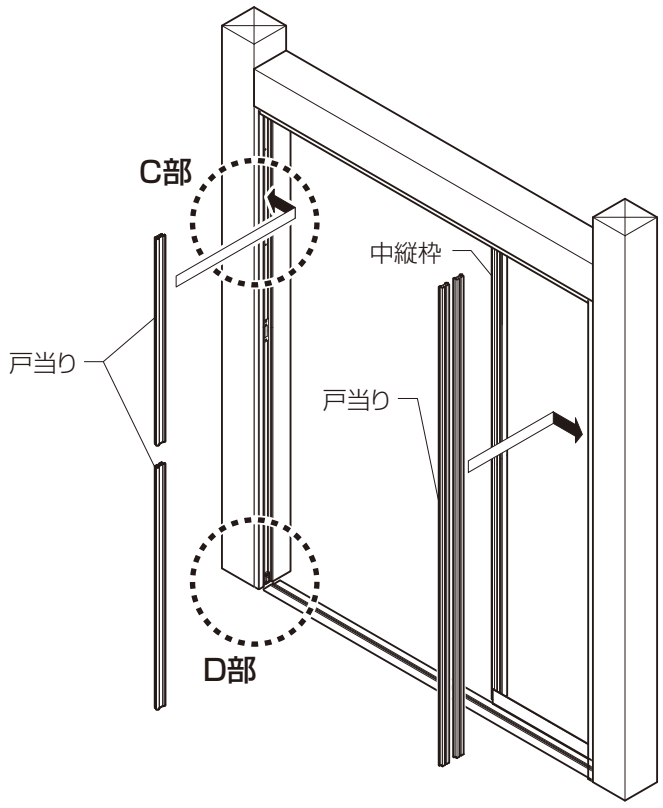
12 L型ガイドの取付け

中間本体の下部にL型ガイドを取付けます。

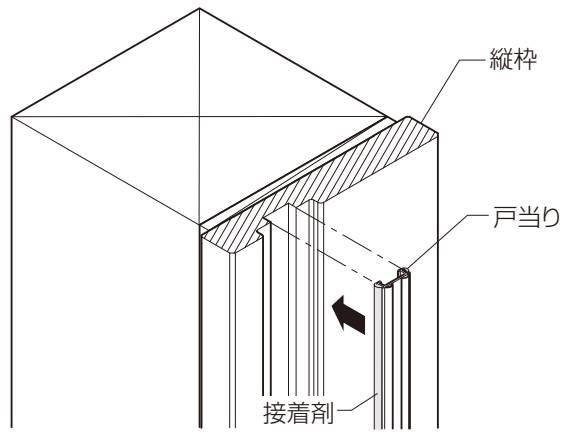


13 戸当りの取付け

①戸当りを現場の寸法に合わせて切断します。
②戸当りに接着剤（現場手配）をつけて縦枠に取付けます。
※戸当りの接着は枠の取付け、下枠の取付け完了後に行ってください。

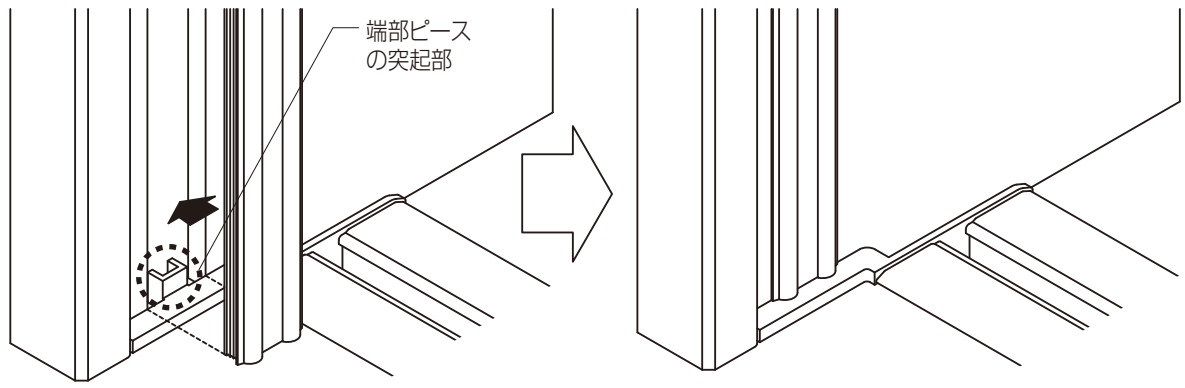


■C部詳細図



■D部詳細図（埋込敷居、フラット下レールの場合）

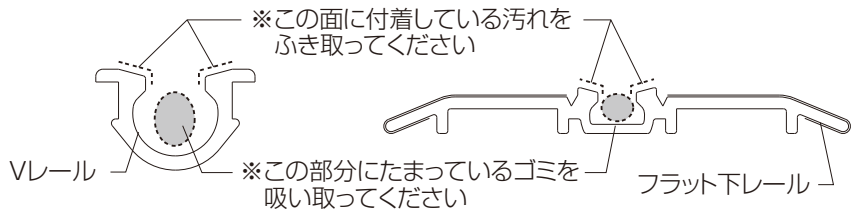
端部ピースの突起に重ねて取付けてください。



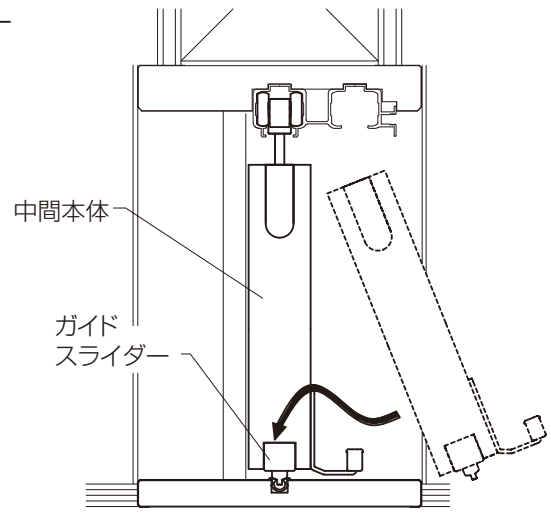
14本体の吊込み

■中間本体の吊込み

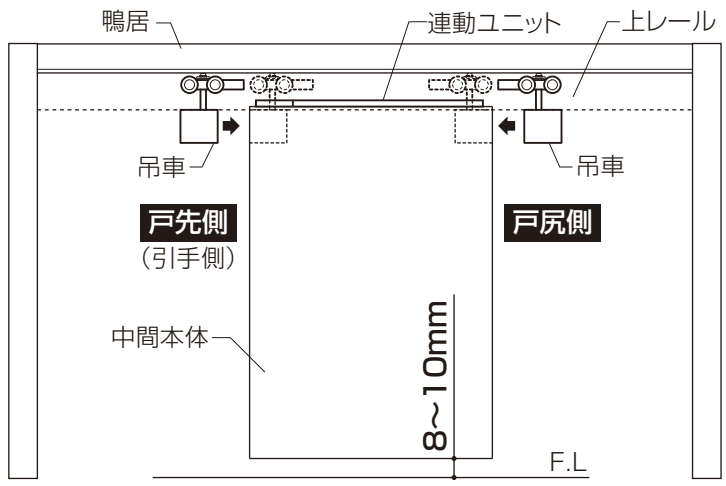
※本体の吊込み前にレールの清掃を行ってください。



①本体下部のガイドスライダーをVレールにはめ込みます。
※中間本体を吊込む際は本体下部に貼り付けているロットNo.ラベルを戸尻側にくるように吊込んでください。



②片側ずつ吊車を本体に**水平に押込む**と、ワンタッチで取付けられます。
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。
③本体と床のチリ寸法が８～10mmの範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整 1上下調整』の手順にそって調整をしてください。

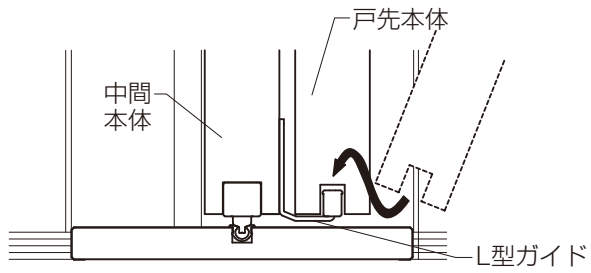


お願い
※吊車が干渉しない枠の中央部で吊込みを行ってください。

⚠注　意
●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

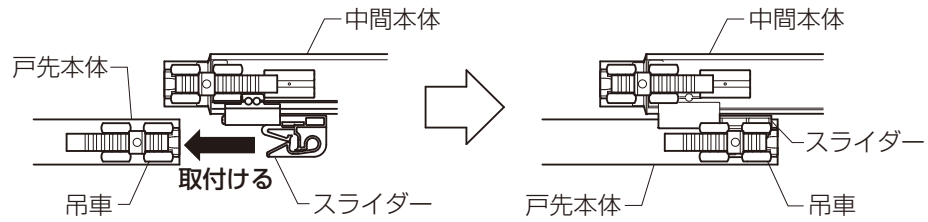
■戸先本体の吊込み

①戸先本体を持上げて、下部の溝にＬ型ガイドを入れます。

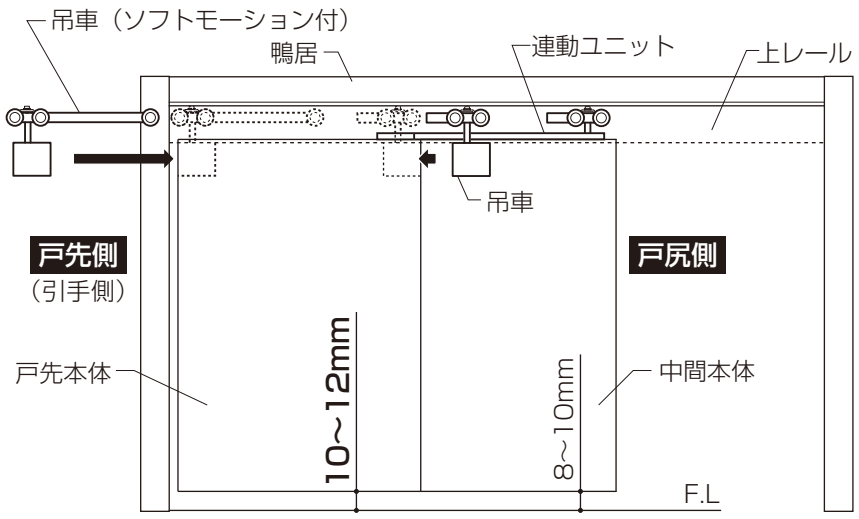


②戸尻側の吊車を本体に取付けて、連動ユニットに固定してください。

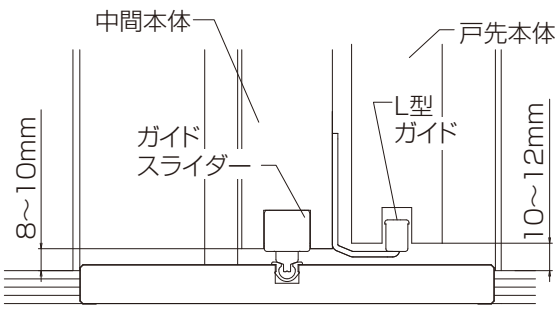
●連動ユニットと吊車の固定方法



③戸先側に吊車(ソフトモーション付)を取付けてください。
④本体と床のチリ寸法が 10 ～ 12mm の範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整 1上下調整』の手順にそって調整をしてください。



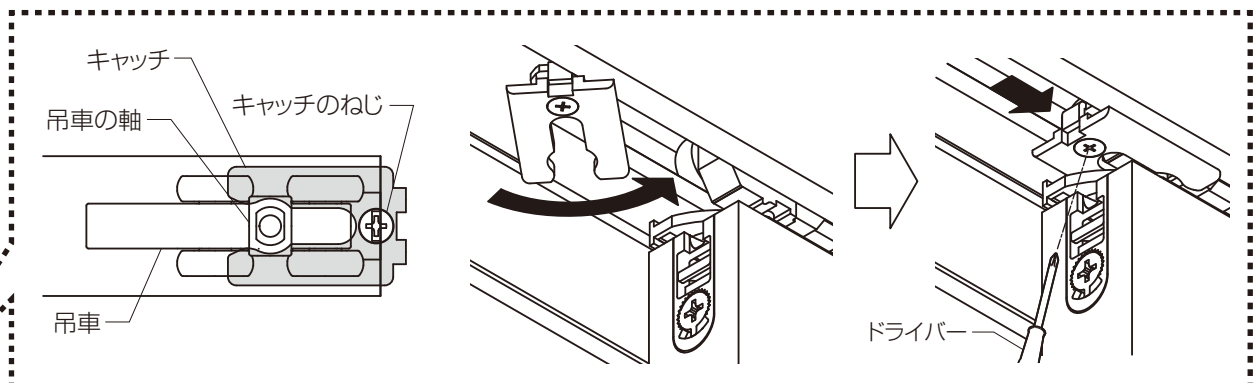
お願い
※中間本体と床のチリ寸法は8～10mmにしてください。ガイドスライダーが外れたり、L型ガイドが下枠をキズつける場合があります。
※戸先本体と床のチリ寸法は中間本体のチリ寸法より大きくしてください。L型ガイドと戸先本体が干渉し、開閉操作に支障がでる場合があります。

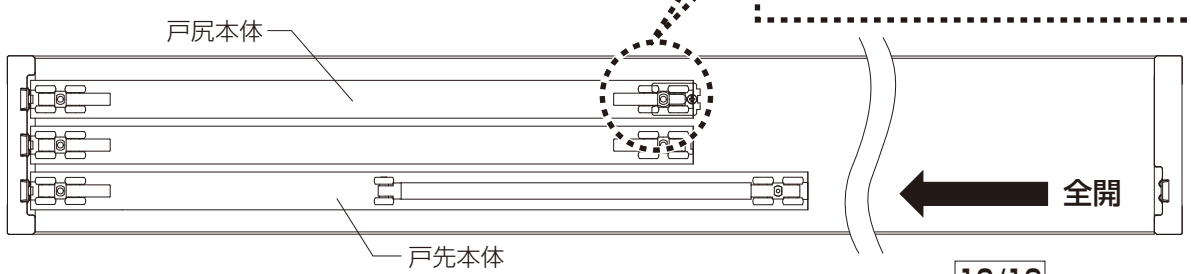


中間本体の吊込み後、必ず動作確認を行い、必要に応じて「■本体の調整」(14/18ページ)を行ってください。

15キャッチの取付け（3枚引戸のみ）

①本体の調整完了後、本体を全開します。
②キャッチのねじをゆるめます。
③戸尻本体の吊車付近で上レールにキャッチを挿入します。キャッチは横向きに挿入し、回転させてください。
④吊車の軸とキャッチを合わせてキャッチのねじを締めつけます。
⑤キャッチの取付け後、戸先本体を開閉し、戸尻本体が開いてこないことを確認してください。



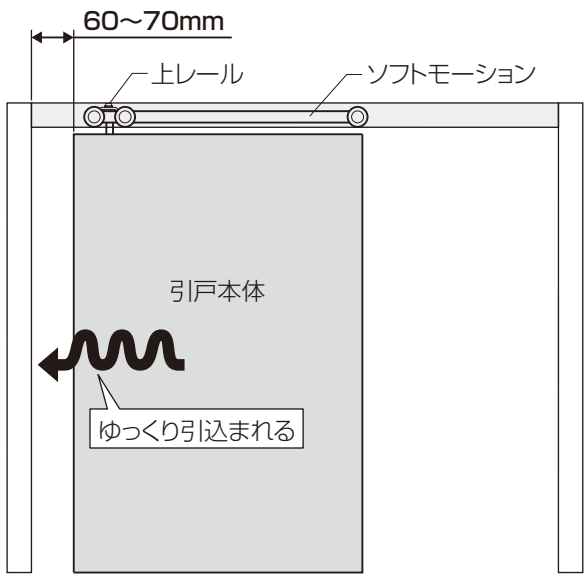


16 バーハンドルの取付け

バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。
また、バーハンドルに同梱の戸当りは使用しません。

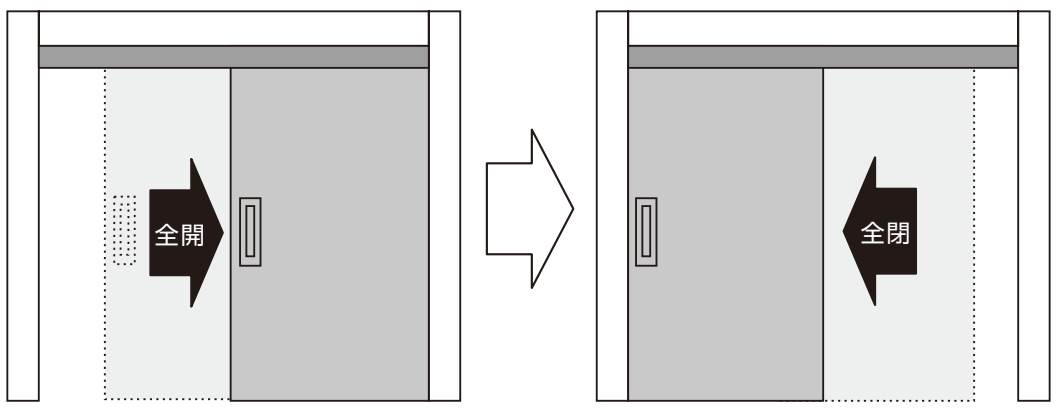
17 ソフトモーションの動作確認

●本体を停止位置より60～70mm動かして、ゆっくりと引き込まれるか確認してください。



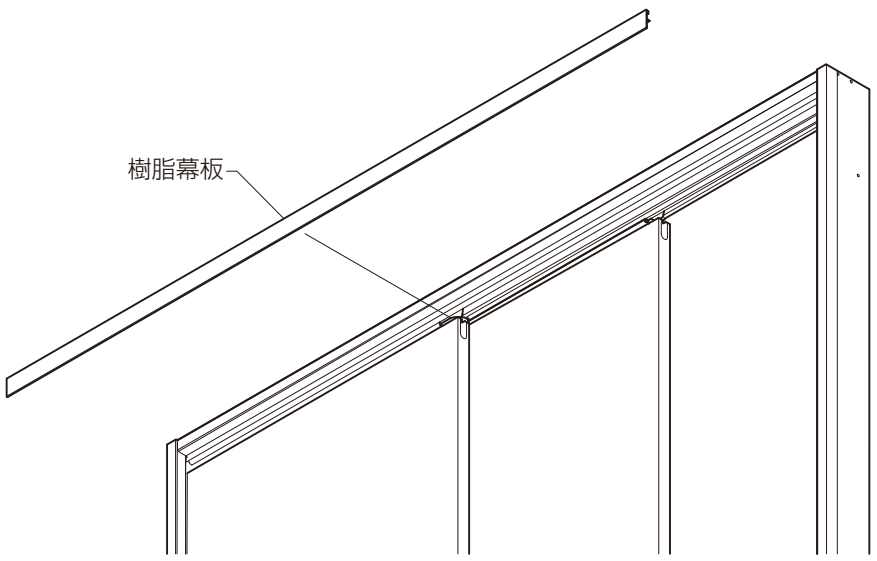
■ソフトモーション機構の自動復帰方法

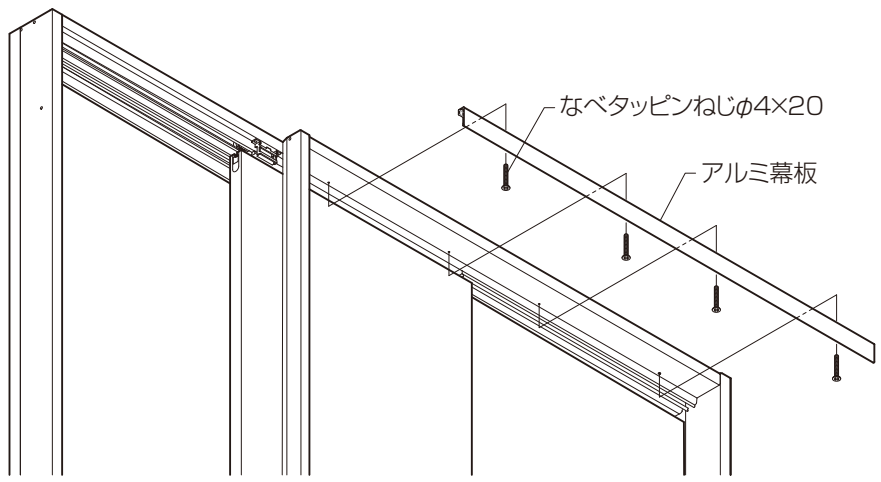
※本体を吊り込んでもソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。
①本体を全開してください。
②本体を全閉してください。
③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。
※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。
※ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



18 幕板の取付け（片引2枚のみ）

本体の両側から幕板を取付けてください。
※樹脂幕板は、現場寸法にあわせて切断してください。





19 錠の取付け

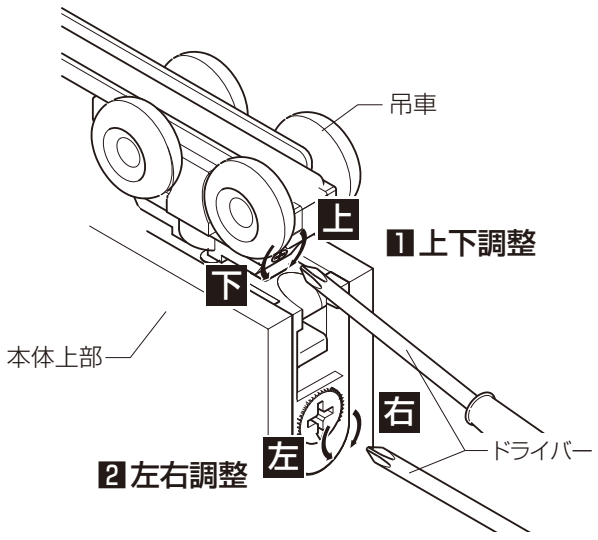
※錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

■本体の調整

1 上下調整(調整幅 上4mm、下1mm)

●プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

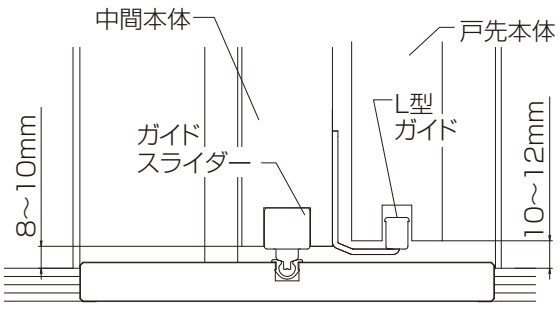
※本体と床のすき間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピンと本体の下部がこすれる場合があります。



お願い

※中間本体と床のチリ寸法は8～10mmにしてください。ガイドスライダーが外れたり、L型ガイドが下枠をキズつける場合があります。

※戸先本体と床のチリ寸法は中間本体のチリ寸法より大きくしてください。L型ガイドと戸先本体が干渉し、開閉操作に支障がでる場合があります。

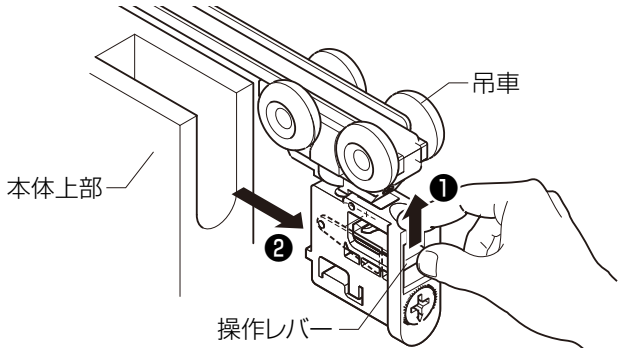


2 左右調整(調整幅左右各2mm)

●左右調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

3 本体の取外し方法

●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。
次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

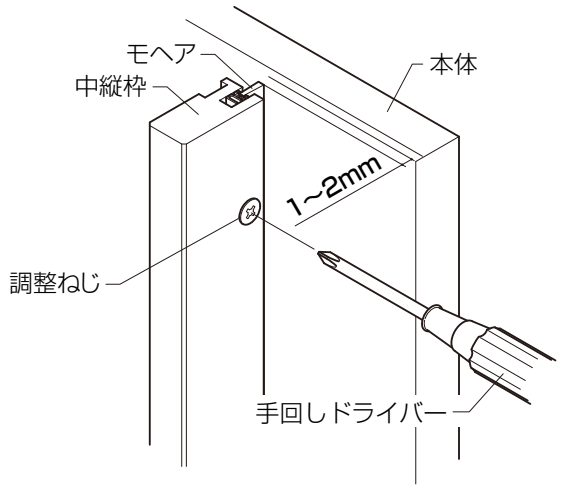


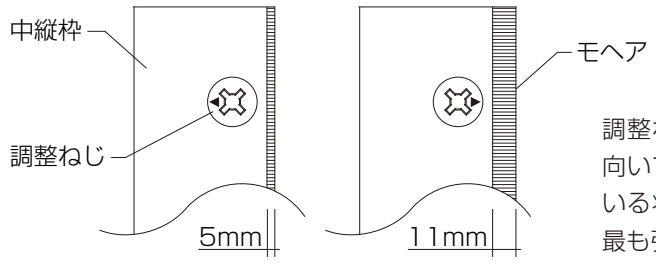
4 中縦枠の調整(調整代 +6mm)

※本体とモヘアのすき間が 1 ～ 2mm 程度になるように調整してください。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
②調整後、本体とモヘアの先端が 1 ～ 2mm のすき間が確保されているか確認してください。

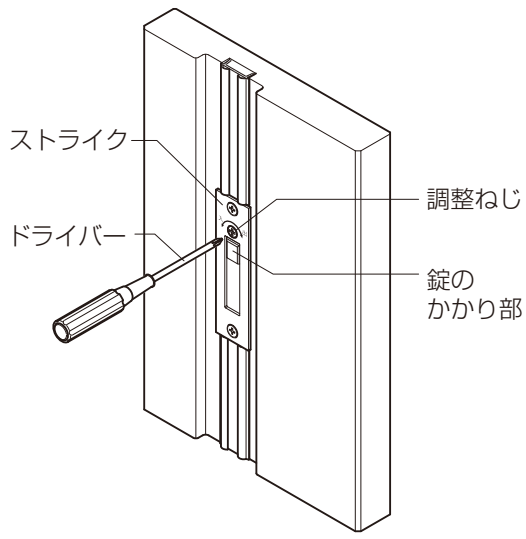




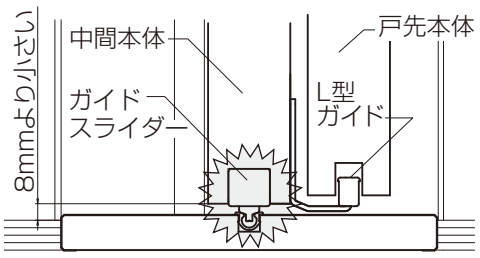
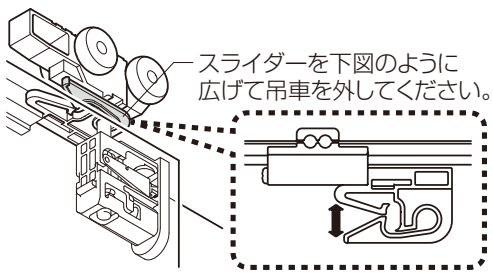
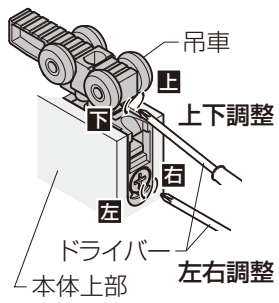
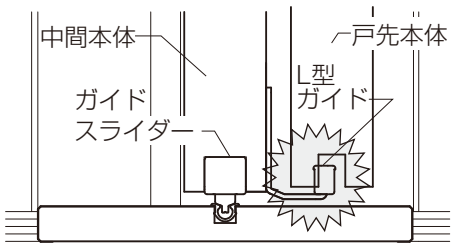
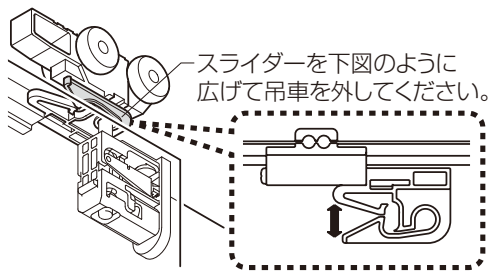
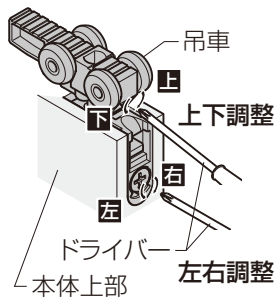
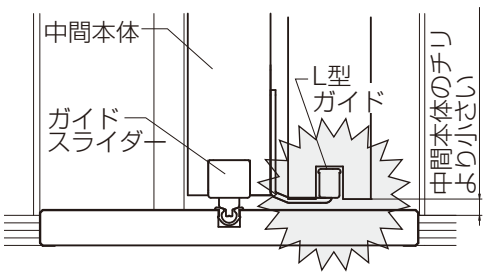
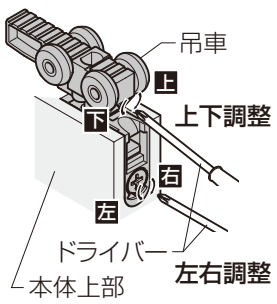
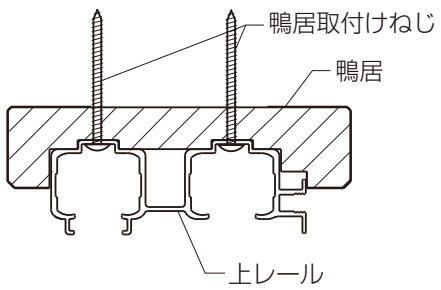
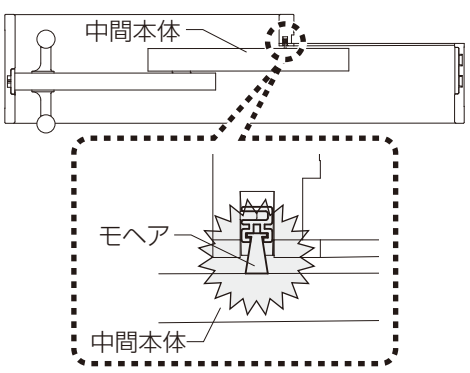
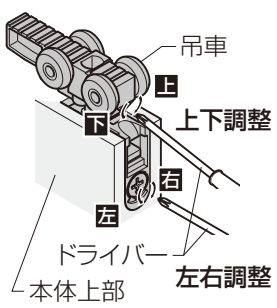
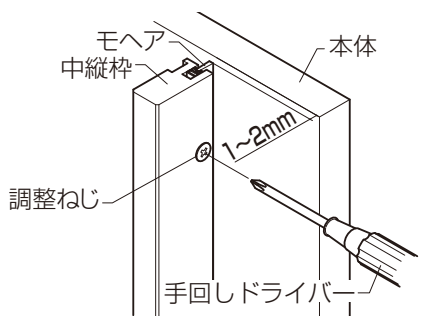
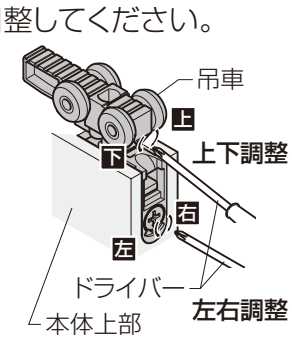
調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

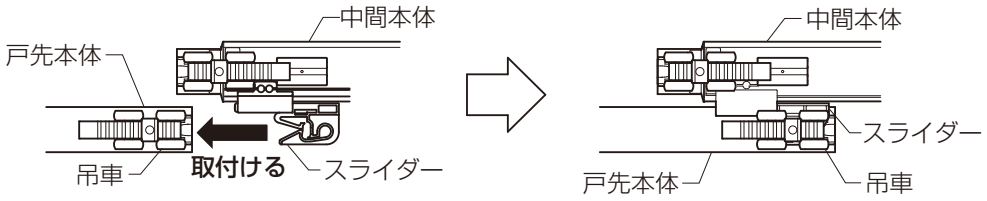
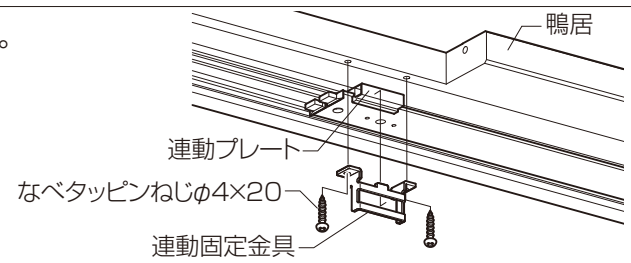
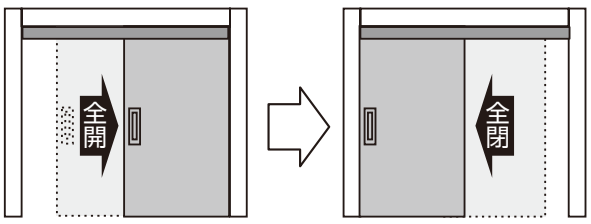
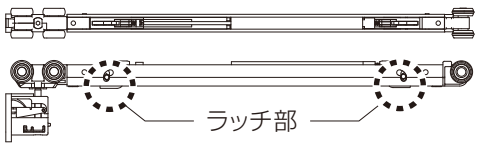
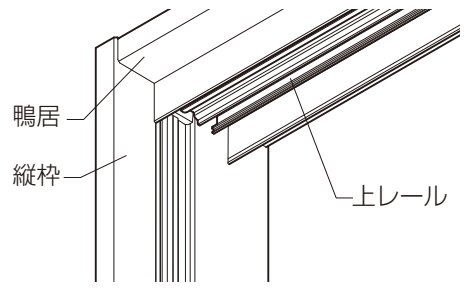
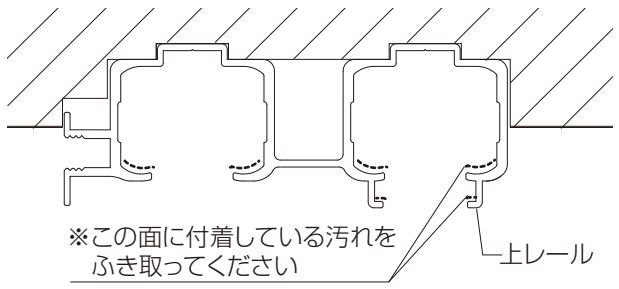
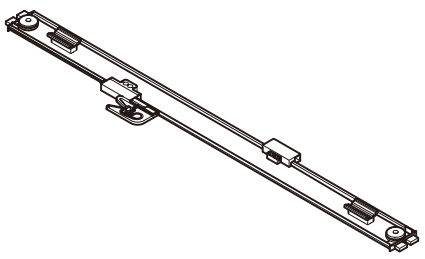
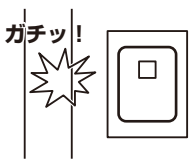
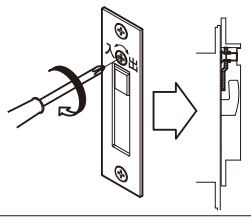
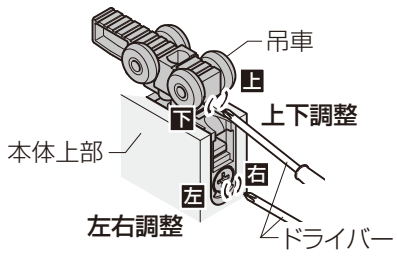
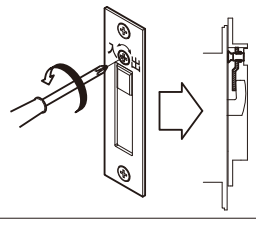
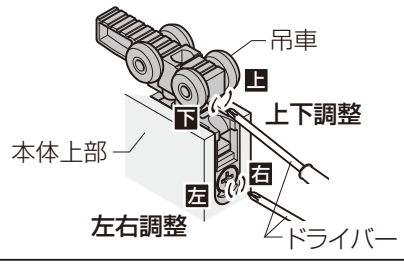
5 引戸錠のかかり調整

●ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、
左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



6 異常時の対処方法

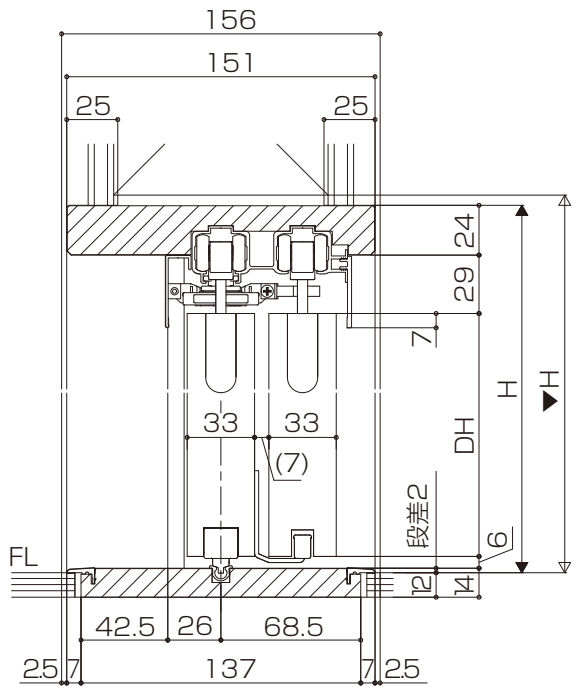
No.	現　　象	チェックポイント	対処方法
①	**開閉が重い**	●下枠とガイドスライダーがこすれている  ✕ 中間本体のチリが8mmより小さい	下枠とガイドスライダーがこすれないように調整してください。 **■中間本体の連動を解除する** スライダーから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダーに戸先本体の吊車を取付けてください。  **■吊車の調整** 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。（調整幅上4mm、下1mm） 
		●戸先本体とL型ガイドが見込方向でこすれている  	戸先本体とL型ガイドがこすれないように調整してください。 **■中間本体の連動を解除する** 連動ユニットのスライダーから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダーに戸先本体の吊車を取付けてください。  **■吊車の調整** 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。（調整幅左右各2mm） 
		●戸先本体とL型ガイドが高さ方向でこすれている  ✕ 戸先本体のチリが中間本体のチリより小さい	戸先本体とL型ガイドがこすれないように、戸先本体または中間本体を調整してください。 **※中間本体を下げる場合はガイドピンとのこすれ、床とのこすれに注意してください。** **■吊車の調整** 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。 （調整幅上4mm、下1mm） 
		●連動ユニットの抵抗が大きい	連動ユニットを交換してください。
		●鴨居の躯体取付けねじの締めすぎでレールがすぼんでいる	鴨居取付けねじをゆるめてください。 
②	**本体が最後まで閉まらない**	●開閉が重いことによる	No.①を参照してください。
		●中間本体とモヘアが接触している  	中間本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。 **■吊車の調整** 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。（調整幅左右各2mm）  **■モヘアの調整** 中縦枠の調整を参照してモヘアの調整をしてください。 
		●本体が戸じゃくりに入っていない	本体が戸じゃくりに入るように、戸じゃくり側の吊車を調整してください。 **■吊車の調整** 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。（調整幅左右各2mm） 

No.	現　　象	チェックポイント	対処方法
③	**中間本体が連動しない**	●連動ユニットのスライダーに吊車が固定されていない	連動ユニットのスライダーに吊車を固定してください。 
		●連動固定金具が枠に固定されていない	連動固定金具を取付けてください。 
④	**ブレーキが効かない**	●吊車（ソフトモーション付）のラッチが上がっている	本体を全開した後、全閉することを1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が自動復帰します。 
⑤	**ブレーキが効かない（長期使用後）**	●吊車（ソフトモーション付）のラッチ部が磨耗している  	吊車（ソフトモーション付）を交換してください。
⑥	**異音がする**	●上レールにごみが付着している  	上レールを清掃してください。 
		●連動ユニットが磨耗している 	連動ユニットを交換してください。
⑦	**鍵がかからない**  	●ストライク調整が不適当	ストライク調整ねじを右に回してください。 
		●本体の上下位置が不適当 ●本体が傾いている	鍵がかかるように本体の位置を調整してください。 **■吊車の調整** 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。 （調整幅上4mm、下1mm） 
⑧	**鍵が甘い（縦枠と本体戸先にすき間が開く）**	●ストライク調整が不適当	ストライク調整ねじを左に回してください。 
		●本体の上下位置が不適当 ●本体が傾いている	鍵がかかるように本体の位置を調整してください。 **■吊車の調整** 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。 （調整幅上4mm、下1mm） 

■納まり図

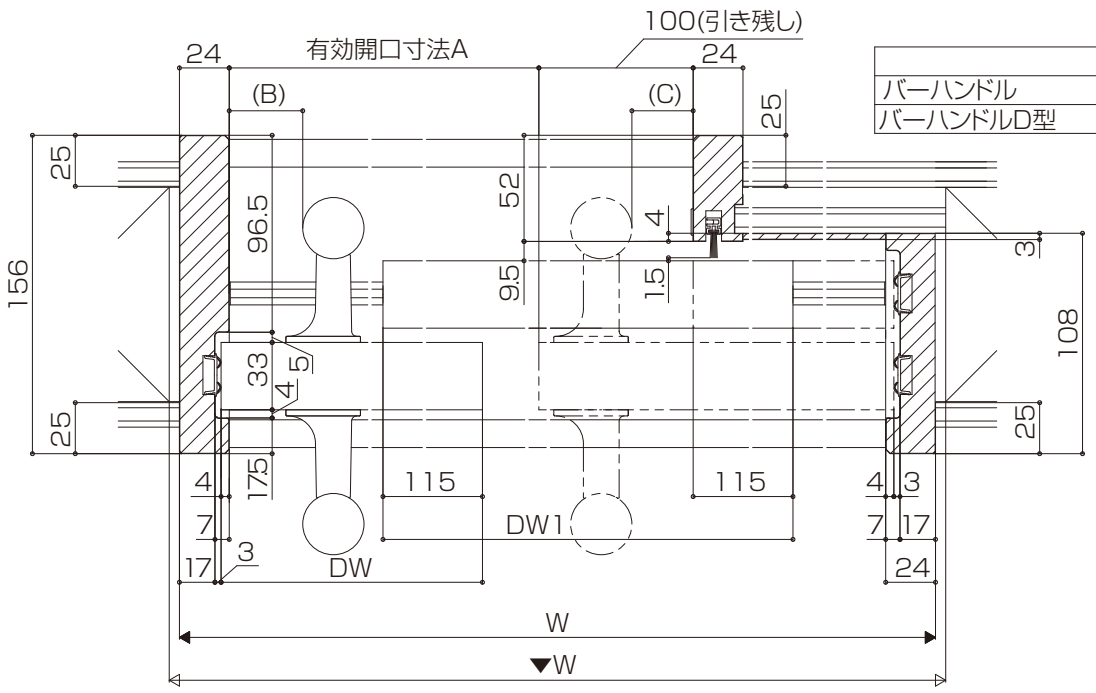
■上吊連動引戸 片引2枚 ノンケーシングタイプ

●縦断面図



・ツバ付薄敷居使用

●横断面図

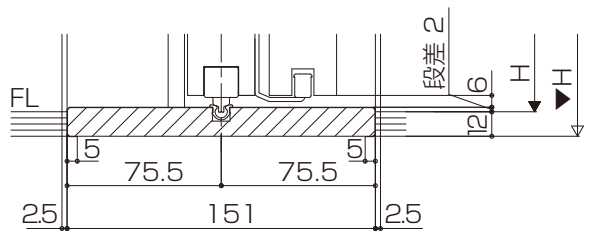


※この図は両側バーハンドルの例です。

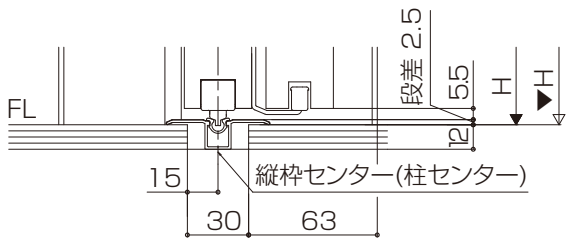
	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37

H呼称(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	922

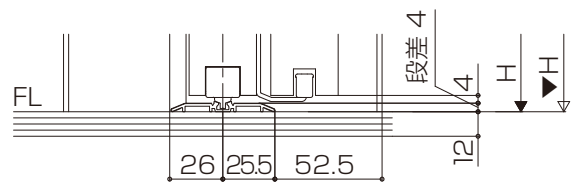
算出式：A 寸法 =(2W-522)/3
DW=(W+390)/3
DW1=(W+90)/3



・ツバなし薄敷居使用



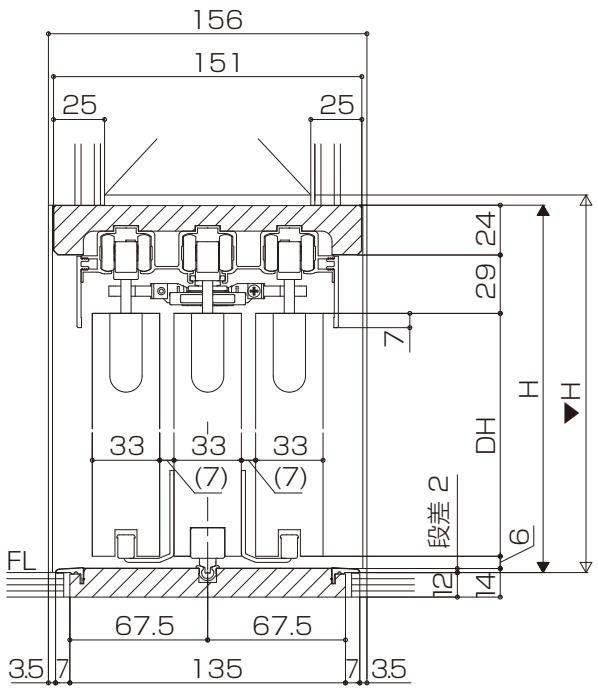
・埋込敷居使用



・フラット下レール使用

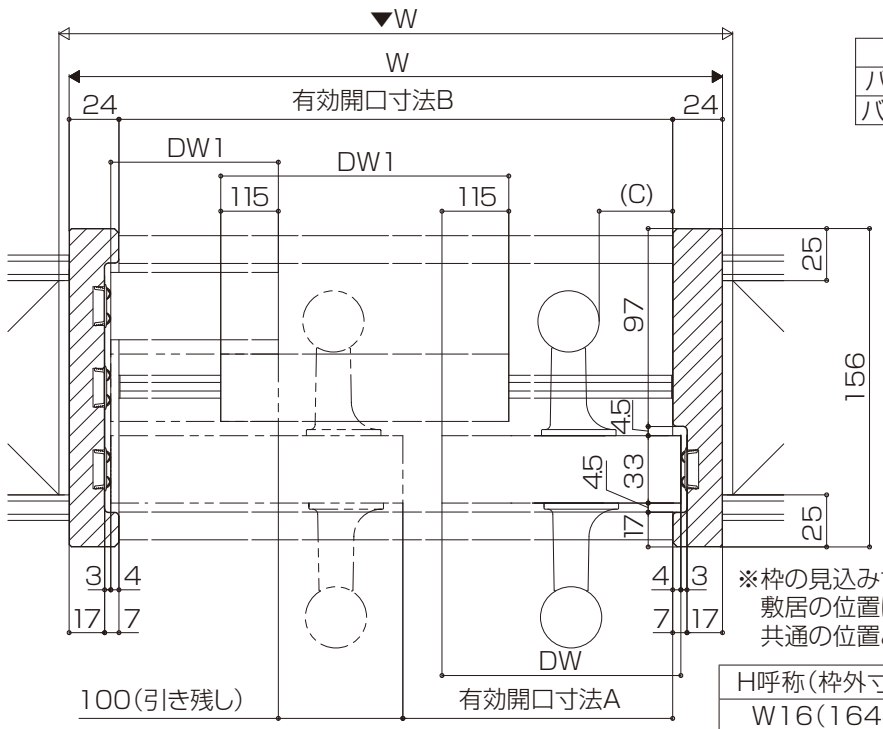
■上吊連動引戸 3枚引戸 ノンケーシングタイプ

●縦断面図



・ツバ付薄敷居使用

●横断面図



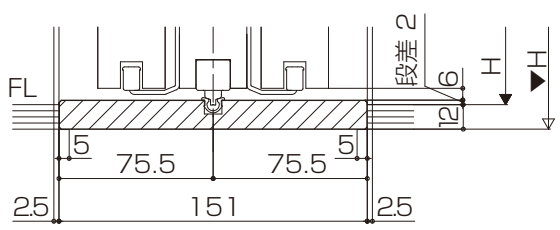
※この図は両側バーハンドルの例です。

	C
バーハンドル	36
バーハンドルD型	33

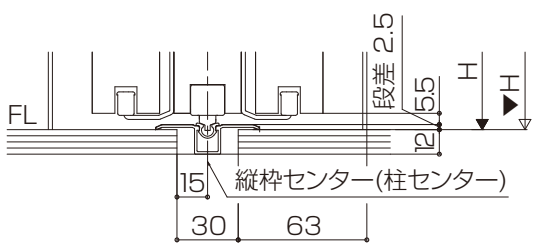
※枠の見込み寸法が変わっても、
敷居の位置は縦枠センターより
共通の位置となります。

H呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	922	1596

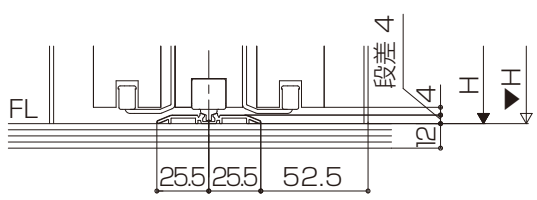
算出式：A 寸法 =(2W-522)/3
B 寸法 =W-48
DW=(W+390)/3
DW1=(W+90)/3



・ツバなし薄敷居使用



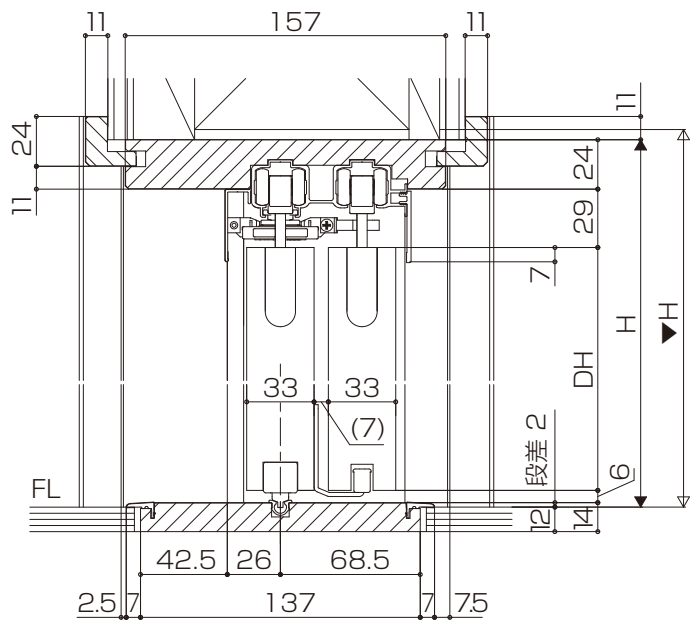
・埋込敷居使用



・フラット下レール使用

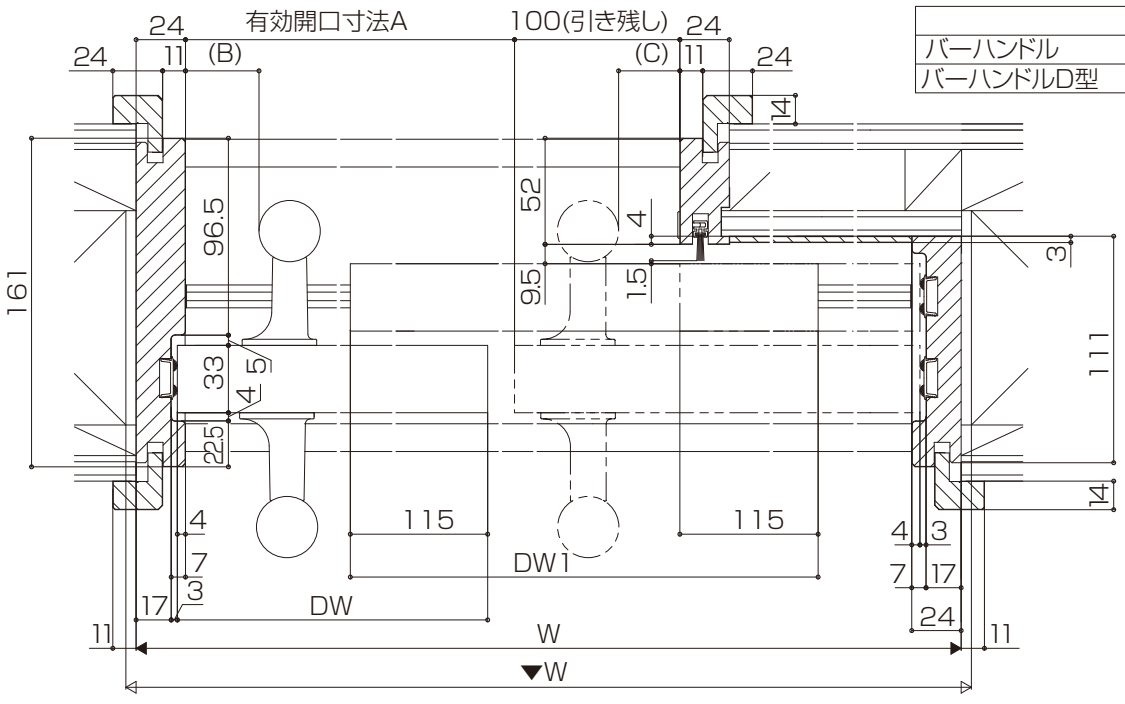
■上吊連動引戸 片引2枚 ケーシングタイプ

●縦断面図



・ツバ付薄敷居使用

●横断面図

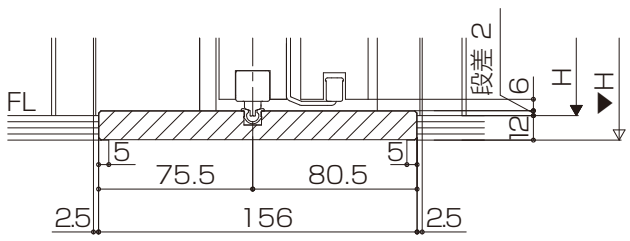


※この図は両側バーハンドルの例です。

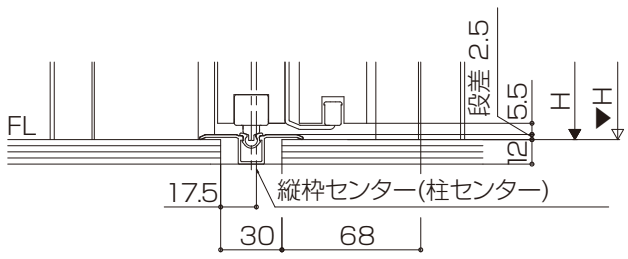
	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37

H呼称(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	922

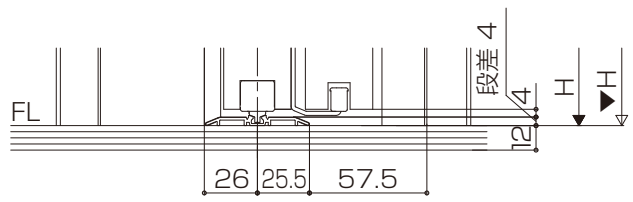
算出式：A 寸法 =(2W-522)/3
DW=(W+390)/3
DW1=(W+90)/3



・ツバなし薄敷居使用



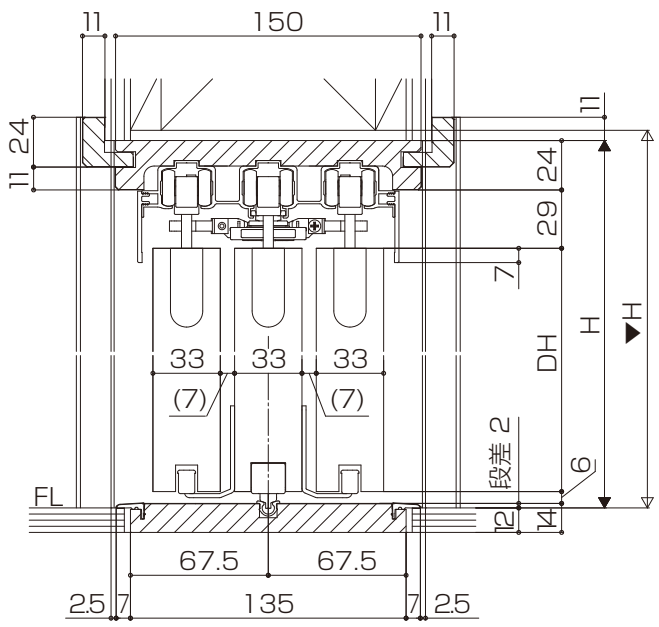
・埋込敷居使用



・フラット下レール使用

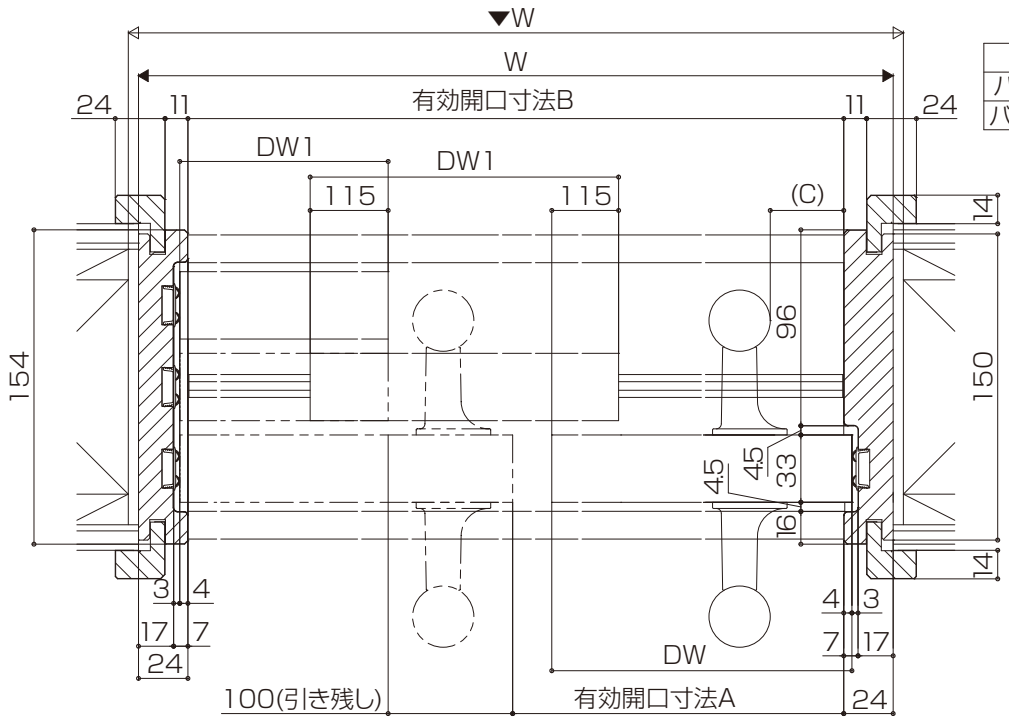
■上吊連動引戸 3枚引戸 ケーシングタイプ

●縦断面図



・ツバ付薄敷居使用

●横断面図

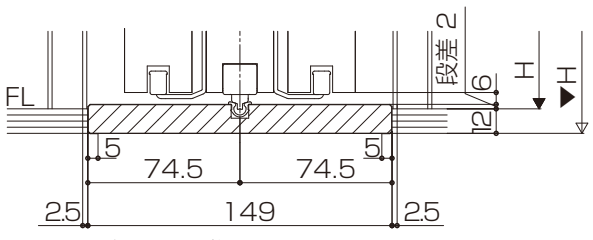


※この図は両側バーハンドルの例です。

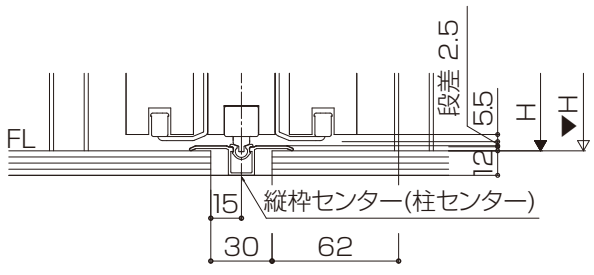
	C
バーハンドル	36
バーハンドルD型	33

H呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	922	1596

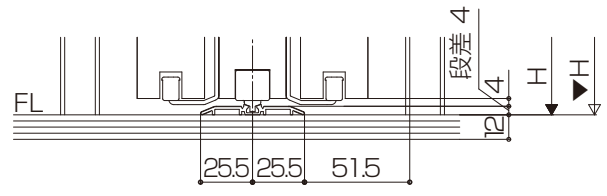
算出式：A 寸法 =(2W-522)/3
B 寸法 =W-48
DW=(W+390)/3
DW1=(W+90)/3



・ツバなし薄敷居使用



・埋込敷居使用



・フラット下レール使用